



佐野市子ども読書活動推進プラン

読書好きな子どもへ

～子どもに本と出会う機会を～



©2011 sanocity sanomaru

令和 4(2022)年 3月

佐野市教育委員会

目 次

第 1 章 佐野市子ども読書活動推進プランの策定の背景

1 プラン策定の背景及び趣旨	1
2 プランの位置づけ	1
3 プランの対象	1
4 プランの計画期間	1
5 読書に関するアンケート結果及び考察	2

第 2 章 基本的な考え方

1 基本目標	27
2 基本方針	27
3 施策の体系	29
4 プランの指標	30

第 3 章 子ども読書活動推進のための施策

第 1 節 子どもが読書に親しむ機会の提供

1 家庭における子ども読書活動の推進	32
2 地域における子ども読書活動の推進	34
3 学校における子ども読書活動の推進	36
4 幼稚園・認定こども園・保育園における子ども読書活動の推進	39
5 図書館における子ども読書活動の推進	40

第 2 節 子どもの読書環境の整備・充実

1 学校図書館の整備・充実	43
2 図書館などの整備・充実	45

第 3 節 子どもの読書活動推進体制の整備

1 関係機関との連携・協力	47
2 施設・企業との連携・協力	48
3 ボランティアグループなどとの連携・協力	49
4 図書館による学校図書館への支援の充実	50

第 4 節 子どもの読書に関する啓発・広報活動の推進

1 「子ども読書の日」を中心とした啓発・広報	51
2 「文字・活字文化の日」を中心とした啓発・広報	52
3 情報の収集と提供	53

第 4 章 子ども読書活動推進のための施策

1 推進管理体制	54
2 計画の推進体制	54

第 1 章 佐野市子ども読書活動推進プラン策定の背景

1 プラン策定の背景及び趣旨

子どもの読書活動は、「子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」（「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条）です。子どもは、読書を通じて、未知の世界を知り、自分自身の考えを深め、判断し、表現する力や他人を思いやる心を養っていきます。

本市では、平成13(2001)年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」を受け、平成20(2008)年3月に「佐野市子ども読書活動推進計画」を策定して以来、二期計画、三期計画を策定し、様々な事業を展開してまいりましたが、子ども読書活動の推進に向けた取組は、まだ十分とはいえません。

このような状況から、より子どもが読書活動に興味を持ち、本に出会うためには、本が常に身近にあることと、子どもと本を結びつける大人の役割が重要です。また、保護者はもとより、学校・地域・図書館などがその意義を理解し、読書に楽しく向き合えるような働きかけと環境づくりが必要です。

学校・地域・家庭・図書館などが連携し、社会全体で子どもの読書活動の推進を図っていくという今までの計画の考え方を受け継ぎ、さらなる推進を図るため、児童、生徒及び未就学児の保護者を対象に読書に関するアンケート調査(以下、「アンケート調査」という。)を行い、子どもを取り巻く読書の現状を把握したうえで、新たに「佐野市子ども読書活動推進プラン」を策定いたしました。

2 プランの位置づけ

本プランは、「子どもの読書活動の推進に関する法律」や国が策定した第四次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」、県の策定した「栃木県子どもの読書活動推進計画(第四期)」との整合を図るとともに、「佐野市教育振興基本計画」、「佐野市生涯学習推進中期基本計画」及びその他の行政計画とも整合性を図りながら、子どもの読書に関する施策を総合的に推進します。

3 プランの対象

本プランで対象とする「子ども」は、0歳から18歳までとします。また、子どもの読書活動には、子どもを取り巻く大人が与える影響も大きいことから、保護者や子どもの読書活動の推進に関わる団体などの「大人」も対象とします。

4 プランの計画期間

本プランの計画期間は令和4(2022)年度から令和7(2025)年度までの4年間とします。また、社会情勢などに大きな変化があった場合には、プラン全体の見直しを行います。

※学校などの表記について

「小学校」「中学校」「小中学校」「中高生」には義務教育学校、義務教育学校の児童生徒を含みます。

5 読書に関するアンケート結果及び考察

(1) アンケート結果

I アンケート調査の目的

本プラン策定のため、子どもの読書の現状や課題の把握、それに対する必要な取組や施策の方向性を探ることを目的に、児童生徒及び保護者にアンケートを実施しました。

II 調査対象者及び人数

調査対象者		配布数	回収数	回収率
児童 生徒	小学5年生 (市内全小学校の1クラス)	462人	462人	100%
	中学2年生 (市内全中学校の1クラス)	317人	310人	97.8%
	高校2年生 (市内全高校の1クラス)	218人	218人	100%
児童・生徒 計		997人	990人	99.3%

幼児(5歳児)の保護者 (市内全幼稚園・認定こども園・保育園 5歳児1クラスの保護者)	557人	462人	82.9%
---	------	------	-------

III 調査期間

令和3(2021)年1月20日～2月12日

IV その他

回答結果の割合(%)は、有効サンプル数に対してそれぞれの回答数の割合を、小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、数値の合計が100%にならない場合があります。

複数回答の設問では、数値の合計は、100%になりません。

V 調査項目

アンケートの設問は次のとおりです。

【小中義務教育学校・高校生】

項 目	問	設 問
読書の好き嫌い	1	あなたは本(マンガ・雑誌を除く)を読むことが好きですか。
読書状況	2	どれくらい本を読んでいますか。
	3	本を読まない理由は何ですか。
	4	平均して1か月に何冊くらい本を読みますか。
	5	どんな本が好きですか。
読書への考え方	6	本を読むことは大切だと思いますか。
	7	どんな時に本を読んでいた良かったと思いましたか。
読み聞かせについて	8	小さいときから今までに、本を読んでもらいましたか。
	9	それは誰からですか。
読書状況	10	いつ頃から自分で本を読むようになりましたか。
読書環境	11	普段どこで本を借りますか
電子書籍について	12	電子書籍を読んだことがありますか。
	13	読みやすさについてどう感じましたか。
	14	紙の本の方が読みやすく感じた理由は何ですか。
	15	電子書籍の方が読みやすく感じた理由は何ですか。
家庭における読書環境	16	家の人は、よく本を読んでいますか。

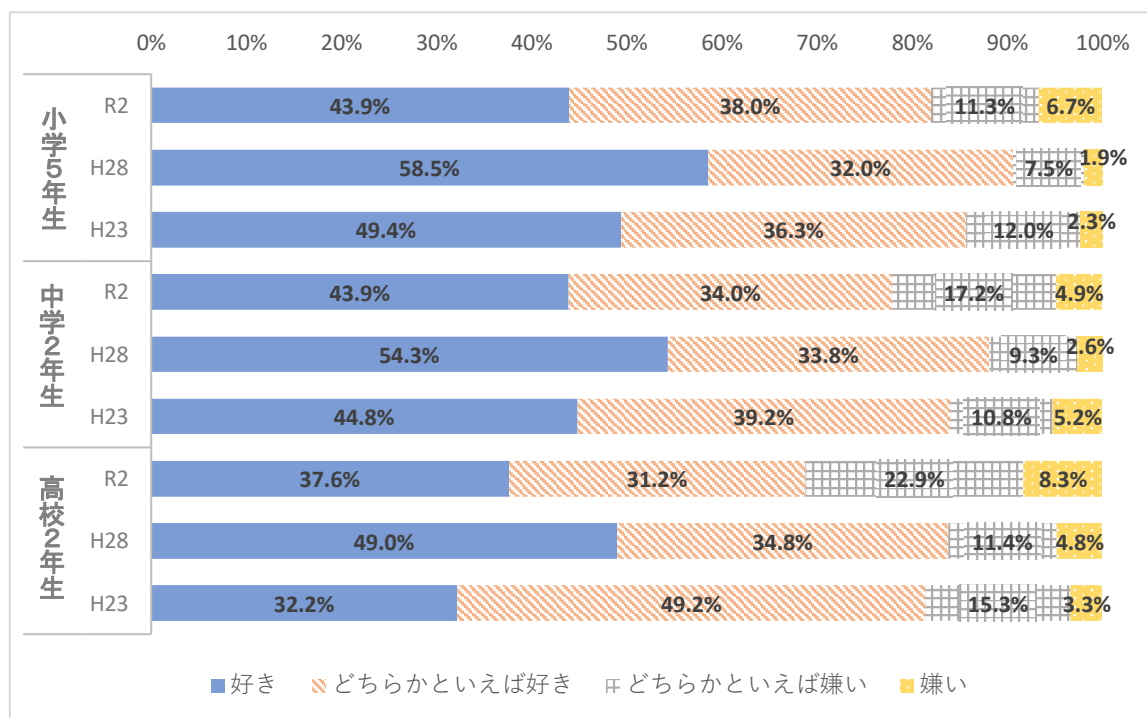
【保護者】

項 目	問	設 問
読書の好き嫌い	1	あなた(保護者)は本を読むことが好きですか。
読書の内容・状況・考え方	2	あなた(保護者)は読書は大切だと思いますか。
	3	あなた(保護者)は平均して1か月に何冊くらい本を読みますか。
	4	本を読まない理由は何ですか。
読み聞かせについて	5	あなたのお子さんは本が好きですか。
	6	子どもに本を読んであげたことはありますか。
	7	読み聞かせをしない理由は何ですか。
読書活動を推進するために必要なこと	8	本の好きな子どもに育てるには、どんなことが必要だと思いますか。
	9	子どもの読書環境等で、今後充実させてほしいと思うことは何ですか。

小中義務教育学校・高校生調査結果

【問１】あなたは本(マンガ・雑誌を除く)を読むことが好きですか。

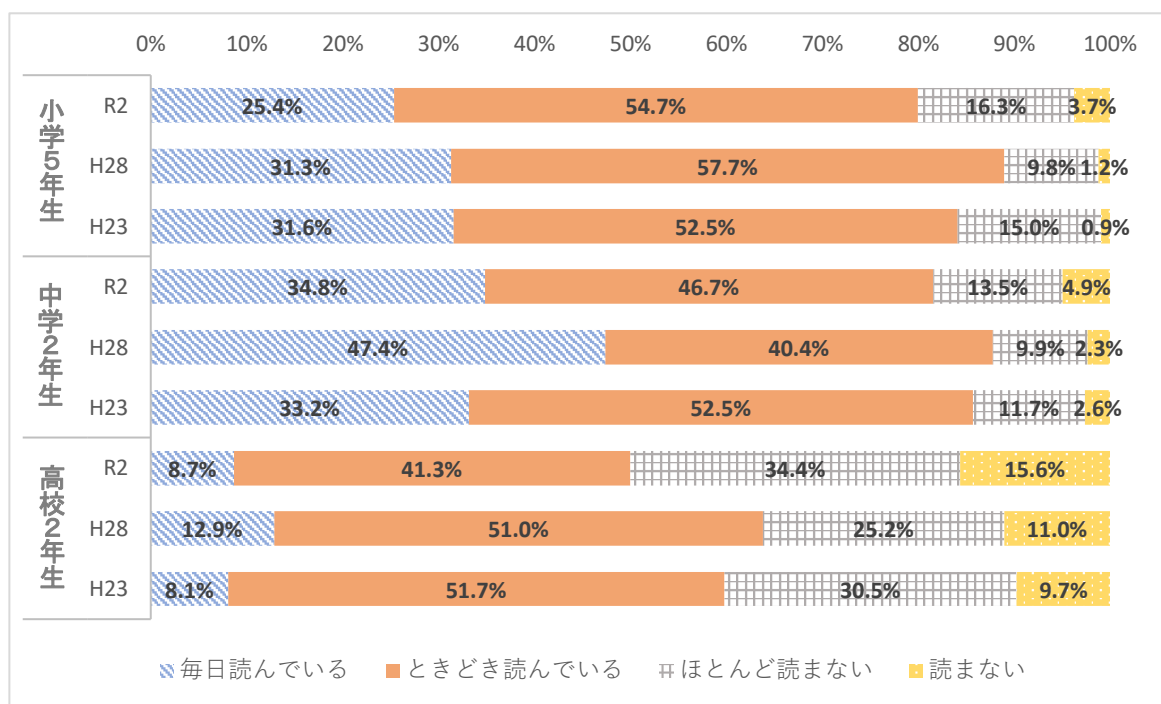
		好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
小学５年生	R2	43.9%	38.0%	11.3%	6.7%
	H28	58.5%	32.0%	7.5%	1.9%
	H23	49.4%	36.3%	12.0%	2.3%
中学２年生	R2	43.9%	34.0%	17.2%	4.9%
	H28	54.3%	33.8%	9.3%	2.6%
	H23	44.8%	39.2%	10.8%	5.2%
高校２年生	R2	37.6%	31.2%	22.9%	8.3%
	H28	49.0%	34.8%	11.4%	4.8%
	H23	32.2%	49.2%	15.3%	3.3%



- ・本を読むことが「好き」または「どちらかといえば好き」と答えた児童・生徒の割合は、前２回のアンケート調査と比べ全て減少しています。

【問2】 どれくらい本を読んでいますか。

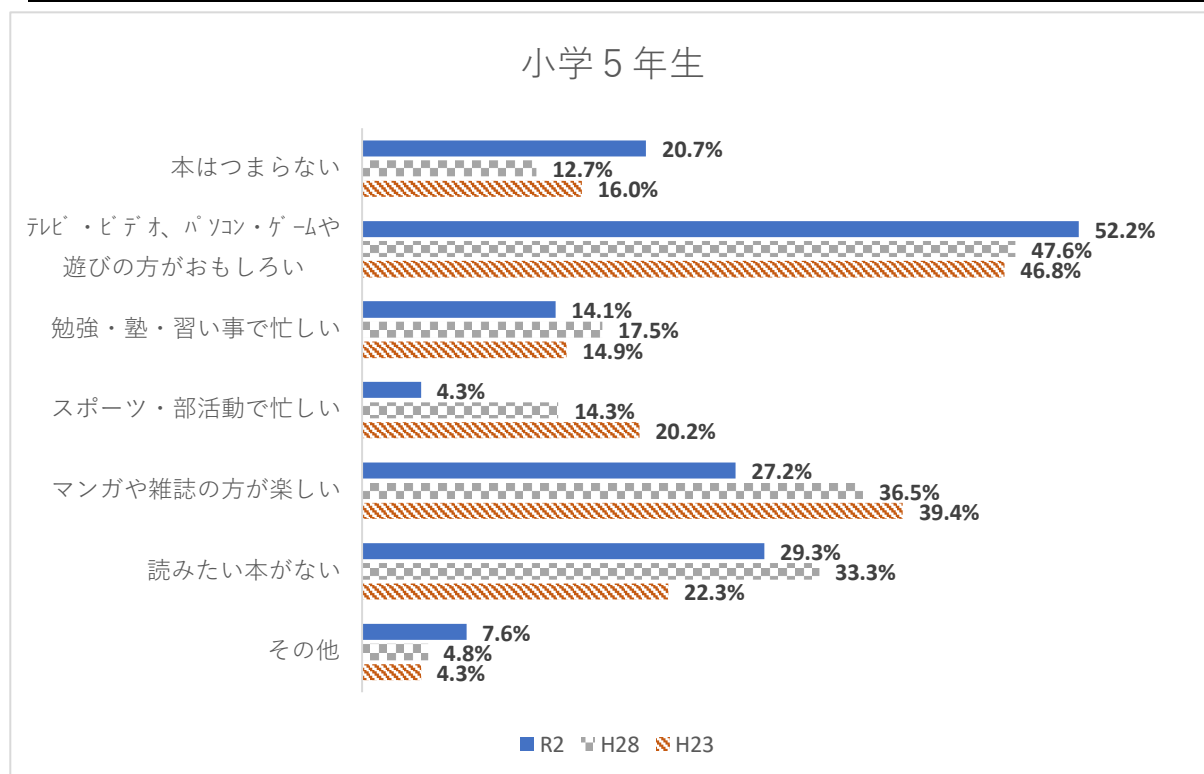
		毎日読んでいる	ときどき読んでいる	ほとんど読まない	読まない
小学5年生	R2	25.4%	54.7%	16.3%	3.7%
	H28	31.3%	57.7%	9.8%	1.2%
	H23	31.6%	52.5%	15.0%	0.9%
中学2年生	R2	34.8%	46.7%	13.5%	4.9%
	H28	47.4%	40.4%	9.9%	2.3%
	H23	33.2%	52.5%	11.7%	2.6%
高校2年生	R2	8.7%	41.3%	34.4%	15.6%
	H28	12.9%	51.0%	25.2%	11.0%
	H23	8.1%	51.7%	30.5%	9.7%



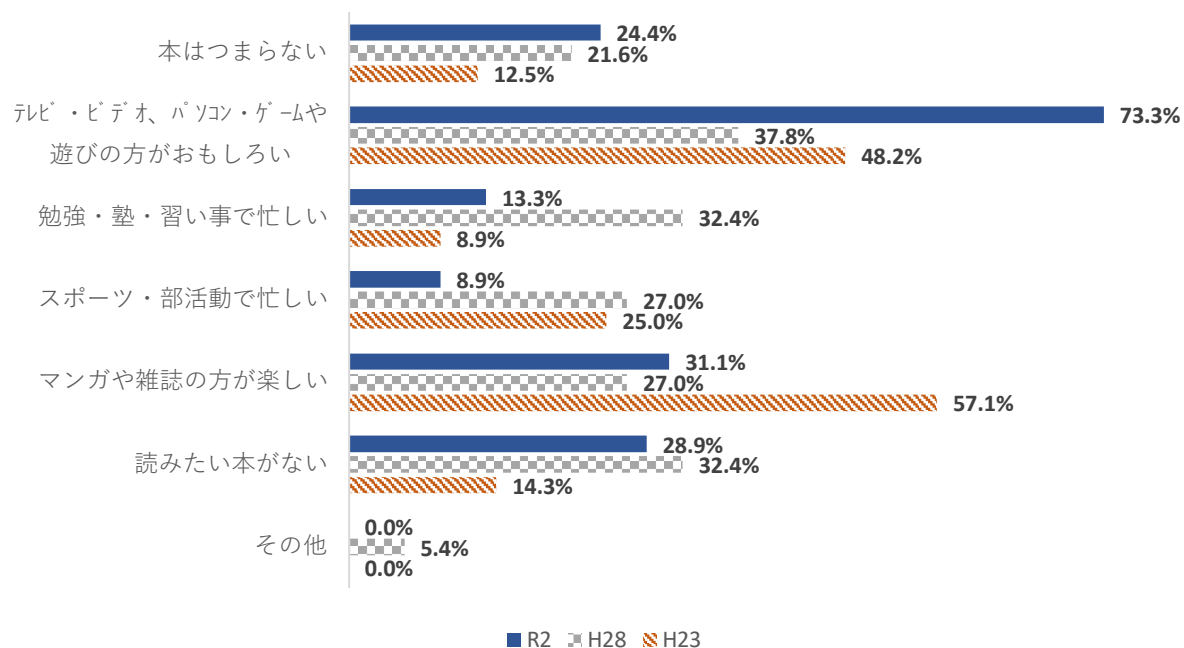
- 本を「毎日読んでいる」「時々読んでいる」と答えた児童・生徒の割合は、前2回のアンケート調査と比べ全て減少しています。

【問3】問2で「ほとんど読まない」「読まない」と答えた方にお聞きします。本を読まない理由は何ですか。あてはまる主なものを2つまで選んでください。

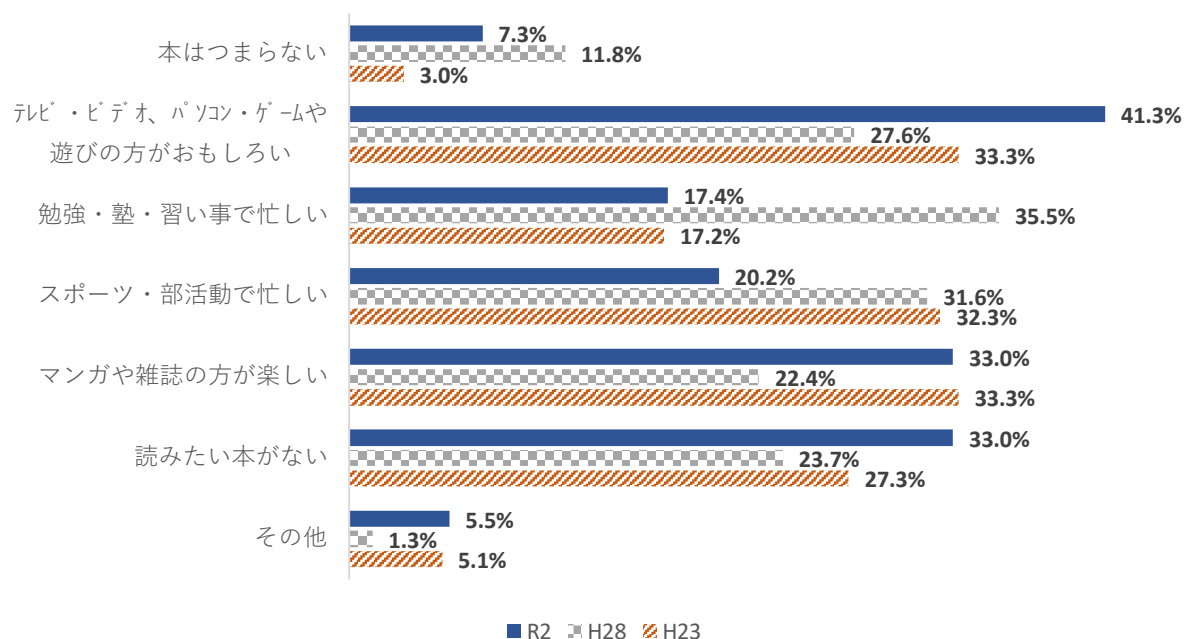
		本はつまらない	テレビ・ビデオ、パソコン・ゲームや遊びの方がおもしろい	勉強・塾・習い事で忙しい	スポーツ・部活動で忙しい	マンガや雑誌の方が楽しい	読みたい本がない	その他
小学5年生	R2	20.7%	52.2%	14.1%	4.3%	27.2%	29.3%	7.6%
	H28	12.7%	47.6%	17.5%	14.3%	36.5%	33.3%	4.8%
	H23	16.0%	46.8%	14.9%	20.2%	39.4%	22.3%	4.3%
中学2年生	R2	24.4%	73.3%	13.3%	8.9%	31.1%	28.9%	0.0%
	H28	21.6%	37.8%	32.4%	27.0%	27.0%	32.4%	5.4%
	H23	12.5%	48.2%	8.9%	25.0%	57.1%	14.3%	0.0%
高校2年生	R2	7.3%	41.3%	17.4%	20.2%	33.0%	33.0%	5.5%
	H28	11.8%	27.6%	35.5%	31.6%	22.4%	23.7%	1.3%
	H23	3.0%	33.3%	17.2%	32.3%	33.3%	27.3%	5.1%



中学 2 年生



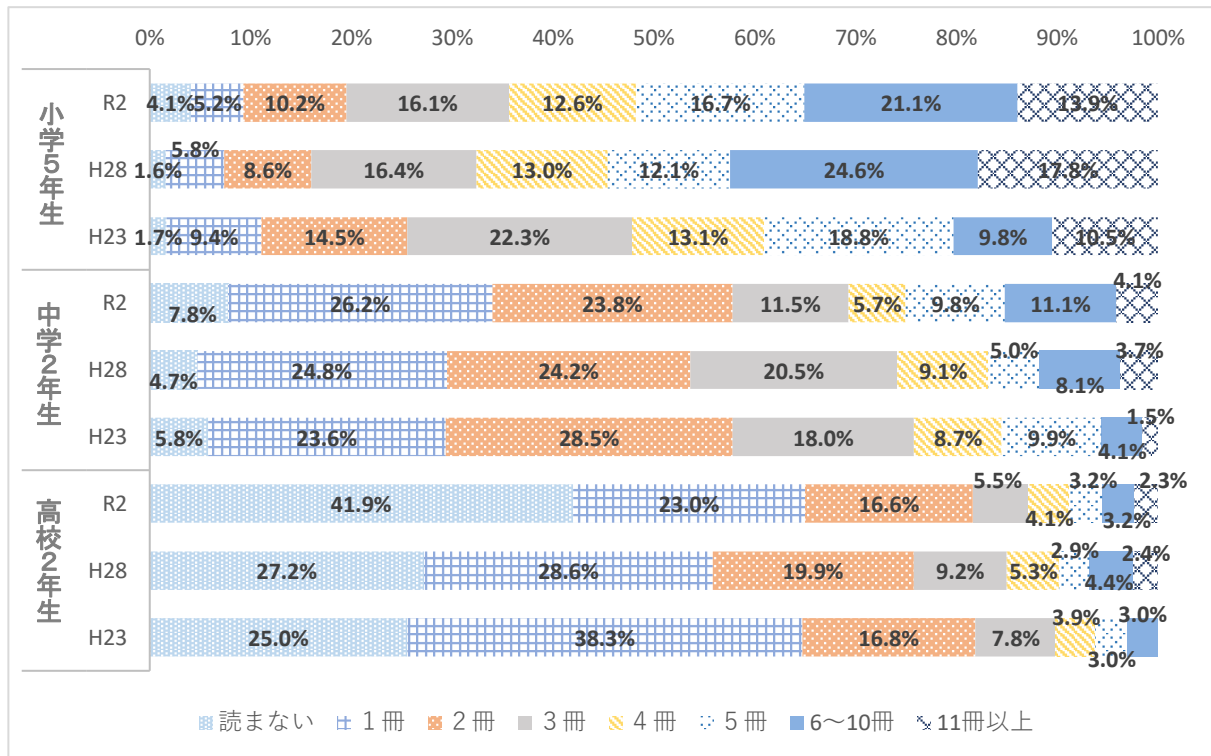
高校 2 年生



- ・今回のアンケート結果では全て「テレビ・ビデオ、パソコン・ゲームや遊びの方が面白い」と回答した割合が一番多くなっています。

【問4】 平均して1 か月に何冊くらい本を読みますか。

		読まない	1冊	2冊	3冊	4冊	5冊	6～10冊	11冊以上
小学5年生	R2	4.1%	5.2%	10.2%	16.1%	12.6%	16.7%	21.1%	13.9%
	H28	1.6%	5.8%	8.6%	16.4%	13.0%	12.1%	24.6%	17.8%
	H23	1.7%	9.4%	14.5%	22.3%	13.1%	18.8%	9.8%	10.5%
中学2年生	R2	7.8%	26.2%	23.8%	11.5%	5.7%	9.8%	11.1%	4.1%
	H28	4.7%	24.8%	24.2%	20.5%	9.1%	5.0%	8.1%	3.7%
	H23	5.8%	23.6%	28.5%	18.0%	8.7%	9.9%	4.1%	1.5%
高校2年生	R2	41.9%	23.0%	16.6%	5.5%	4.1%	3.2%	3.2%	2.3%
	H28	27.2%	28.6%	19.9%	9.2%	5.3%	2.9%	4.4%	2.4%
	H23	25.0%	38.3%	16.8%	7.8%	3.9%	3.0%	3.0%	0.0%

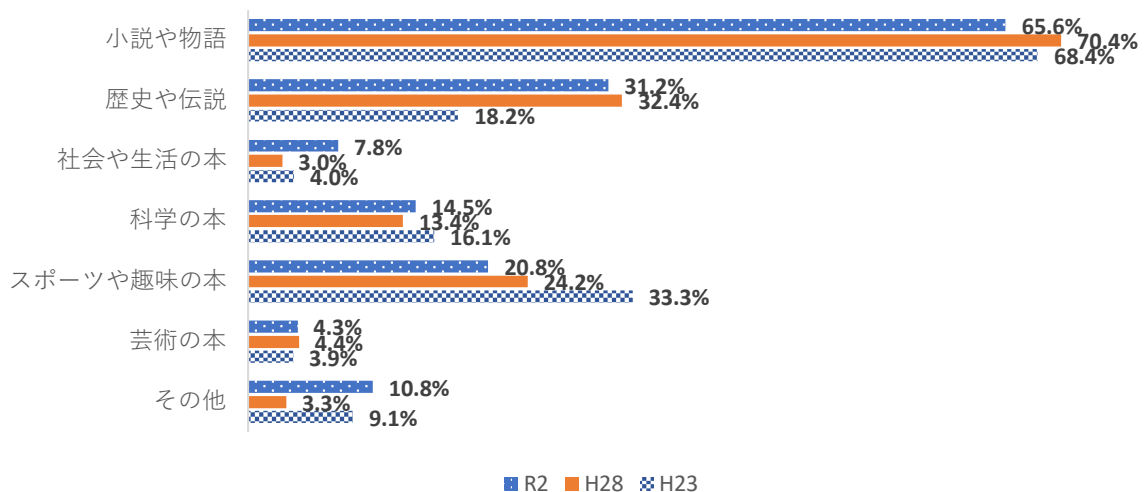


- ・小学5年生では、「6～10冊」の割合が多いのに対して、中学2年生では「1冊」、高校2年生では「読まない」という割合が一番多くなっています。

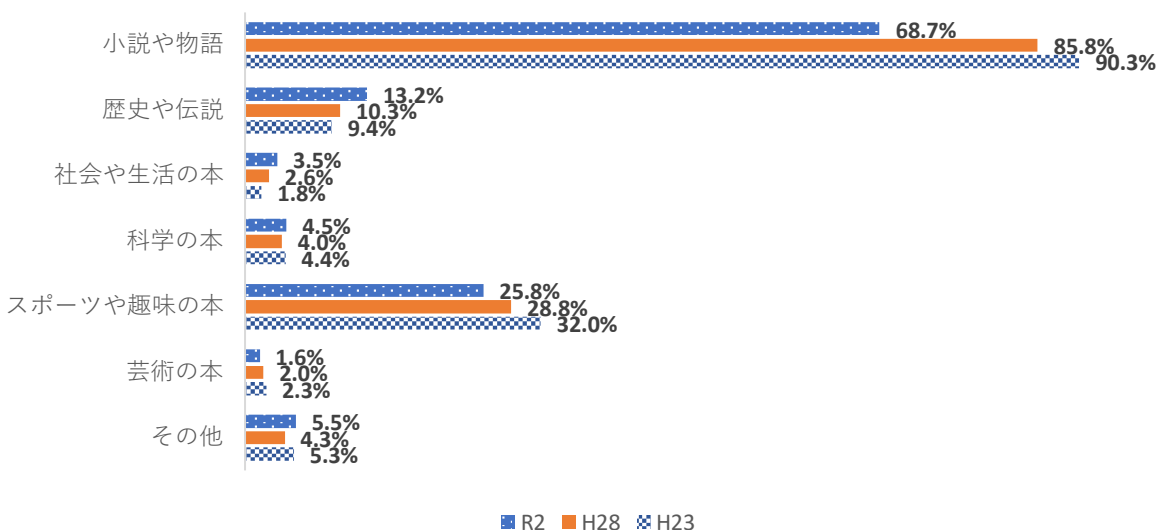
【問5】どんな本が好きですか。あてはまる主なものを2つまで選んでください。

		小説や物語	歴史や伝説	社会や生活の本	科学の本	スポーツや趣味の本	芸術の本	その他
小学5年生	R2	65.6%	31.2%	7.8%	14.5%	20.8%	4.3%	10.8%
	H28	70.4%	32.4%	3.0%	13.4%	24.2%	4.4%	3.3%
	H23	68.4%	18.2%	4.0%	16.1%	33.3%	3.9%	9.1%
中学2年生	R2	68.7%	13.2%	3.5%	4.5%	25.8%	1.6%	5.5%
	H28	85.8%	10.3%	2.6%	4.0%	28.8%	2.0%	4.3%
	H23	90.3%	9.4%	1.8%	4.4%	32.0%	2.3%	5.3%
高校2年生	R2	81.7%	10.6%	6.0%	5.5%	22.0%	3.2%	7.8%
	H28	84.8%	8.6%	6.2%	2.4%	23.3%	1.9%	4.3%
	H23	86.3%	7.3%	4.3%	0.9%	29.2%	4.7%	3.4%

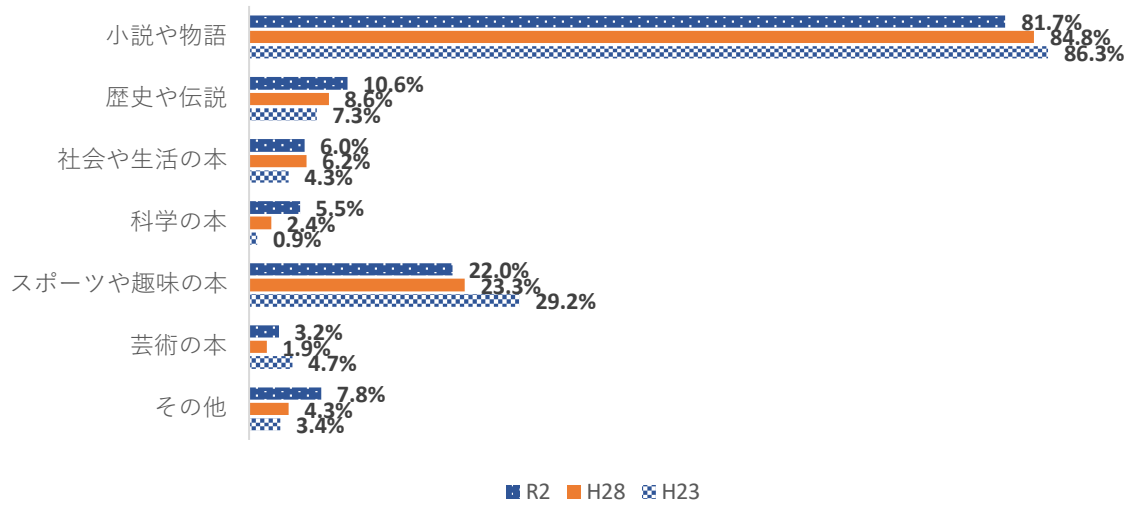
小学5年生



中学2年生



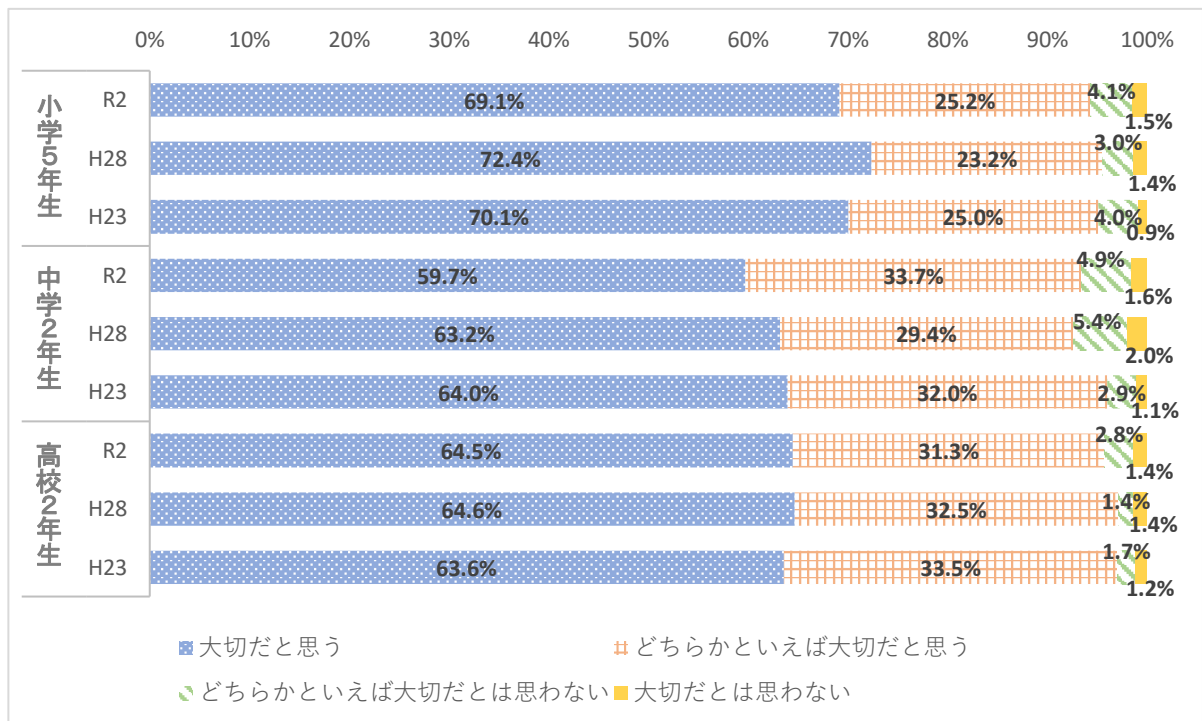
高校2年生



- ・小説や物語は、前2回の調査と同様に非常に高い人気があり、どの学年でも好きと答えた割合が高くなっていますが、スポーツや趣味に関する本を好きと答えた割合は減少傾向にあります。

【問6】本を読むことは大切だと思いますか。

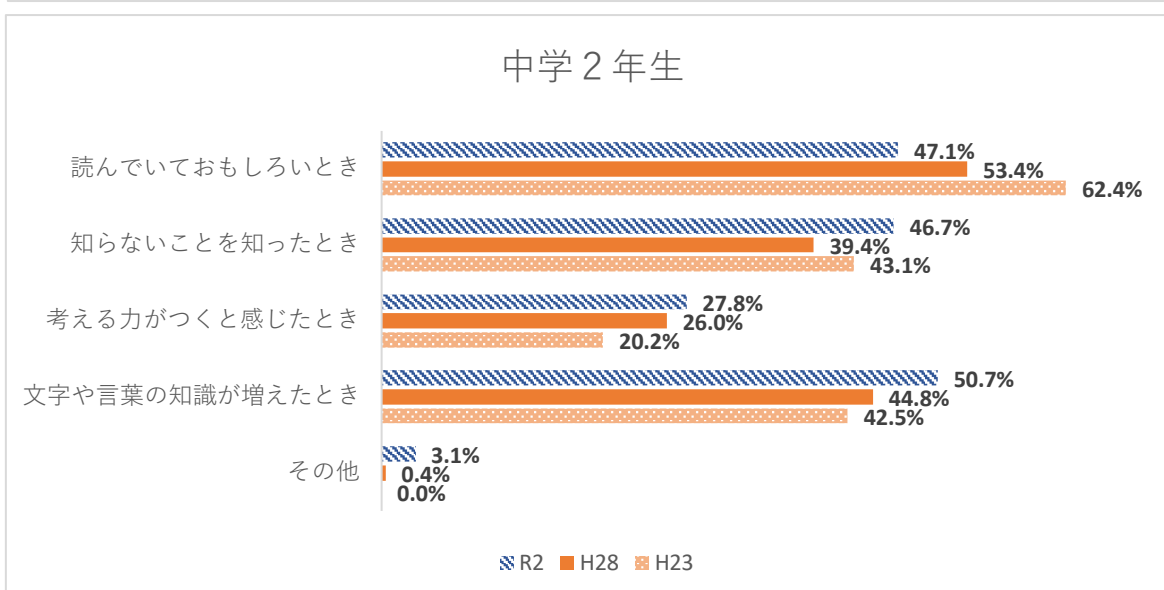
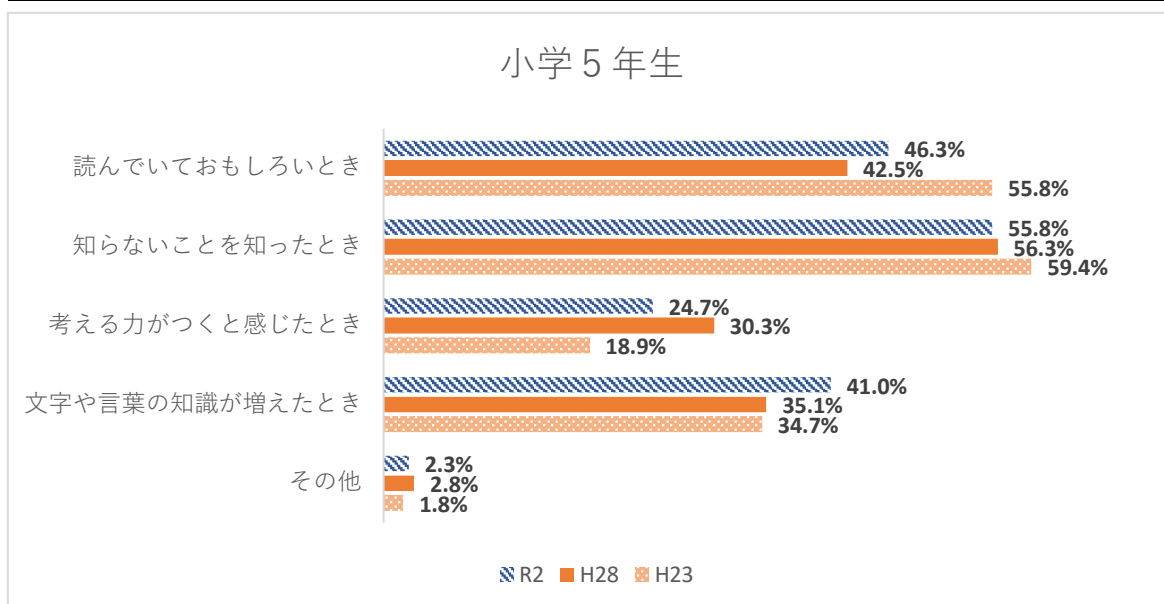
		大切だと思う	どちらかといえば大切だと思う	どちらかといえば大切だとは思わない	大切だとは思わない
小学5年生	R2	69.1%	25.2%	4.1%	1.5%
	H28	72.4%	23.2%	3.0%	1.4%
	H23	70.1%	25.0%	4.0%	0.9%
中学2年生	R2	59.7%	33.7%	4.9%	1.6%
	H28	63.2%	29.4%	5.4%	2.0%
	H23	64.0%	32.0%	2.9%	1.1%
高校2年生	R2	64.5%	31.3%	2.8%	1.4%
	H28	64.6%	32.5%	1.4%	1.4%
	H23	63.6%	33.5%	1.7%	1.2%

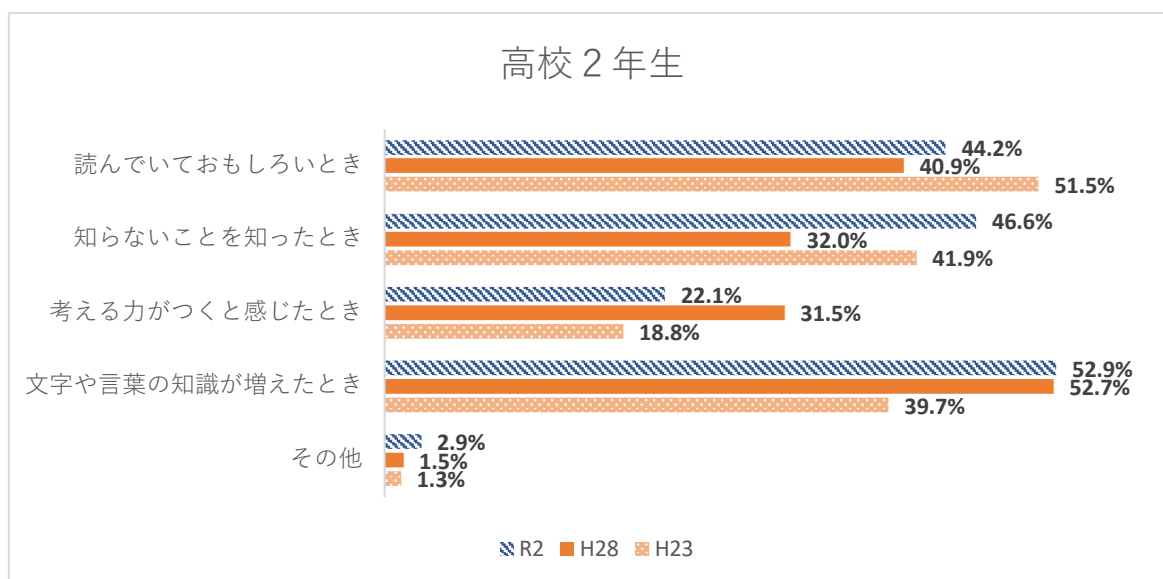


・9割以上の児童生徒が本を読むことが大切だと考えています。

【問7】問6で「大切だと思う」「どちらかといえば大切だと思う」と答えた方にお聞きします。どんな時に本を読んでいて良かったと思いますか。あてはまる主なものを2つまで選んでください。

		読んでいて おもしろいとき	知らないことを 知ったとき	考える力がつくと 感じたとき	文字や言葉の知識 が増えたとき	その他
小学5年生	R2	46.3%	55.8%	24.7%	41.0%	2.3%
	H28	42.5%	56.3%	30.3%	35.1%	2.8%
	H23	55.8%	59.4%	18.9%	34.7%	1.8%
中学2年生	R2	47.1%	46.7%	27.8%	50.7%	3.1%
	H28	53.4%	39.4%	26.0%	44.8%	0.4%
	H23	62.4%	43.1%	20.2%	42.5%	0.0%
高校2年生	R2	44.2%	46.6%	22.1%	52.9%	2.9%
	H28	40.9%	32.0%	31.5%	52.7%	1.5%
	H23	51.5%	41.9%	18.8%	39.7%	1.3%

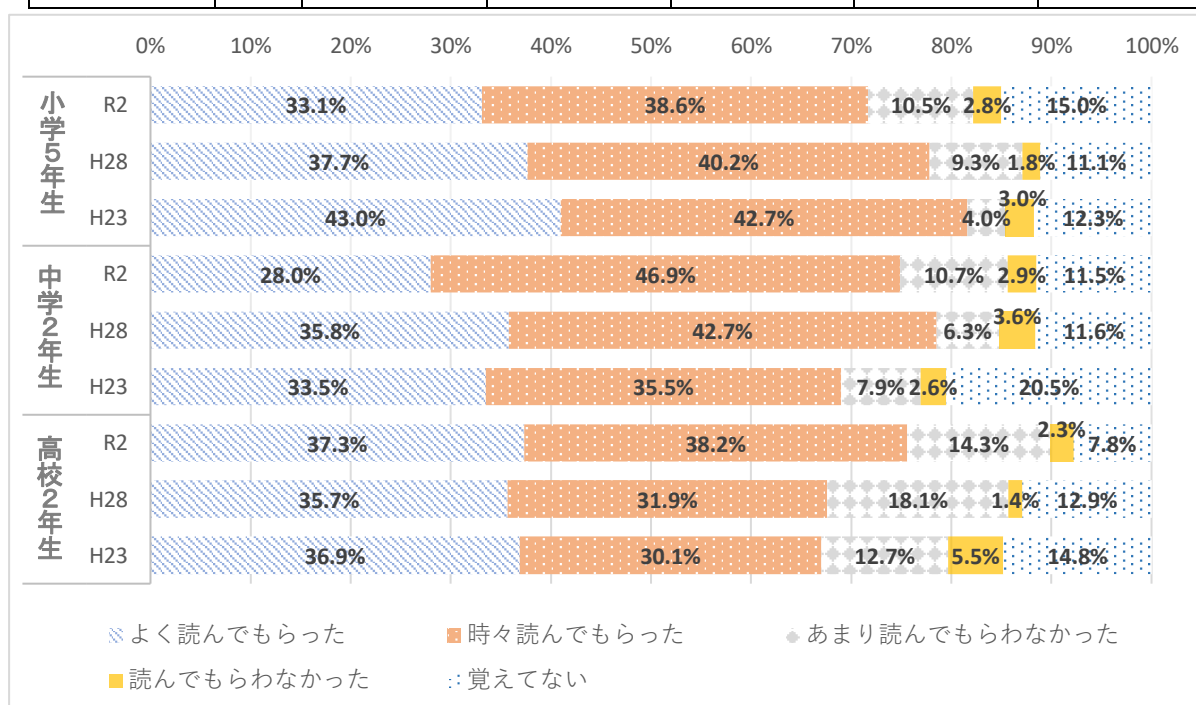




- どの学年においても「文字や言葉の知識が増えたとき」と回答した割合が増加しています。

【問8】小さいときから今までに本を読んでももらいましたか。

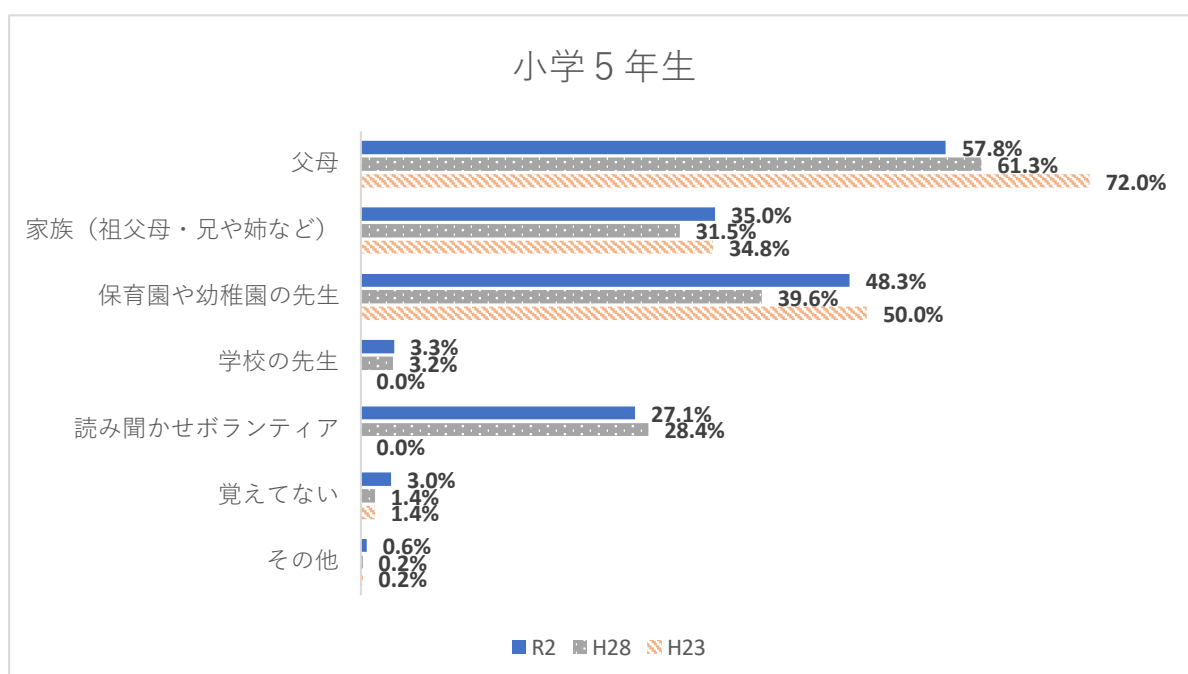
		よく読んで もらった	時々読んで もらった	あまり読んで もらわなかった	読んでもらわ なかった	覚えてない
小学5年生	R2	33.1%	38.6%	10.5%	2.8%	15.0%
	H28	37.7%	40.2%	9.3%	1.8%	11.1%
	H23	43.0%	42.7%	4.0%	3.0%	12.3%
中学2年生	R2	28.0%	46.9%	10.7%	2.9%	11.5%
	H28	35.8%	42.7%	6.3%	3.6%	11.6%
	H23	33.5%	35.5%	7.9%	2.6%	20.5%
高校2年生	R2	37.3%	38.2%	14.3%	2.3%	7.8%
	H28	35.7%	31.9%	18.1%	1.4%	12.9%
	H23	36.9%	30.1%	12.7%	5.5%	14.8%

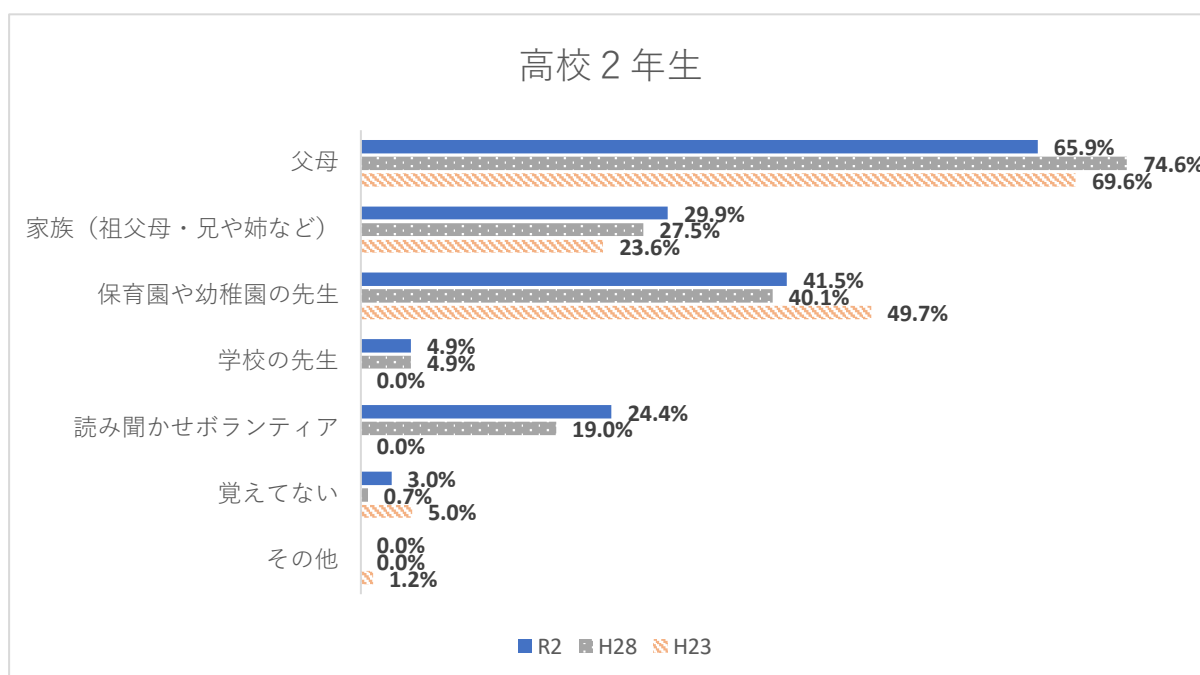
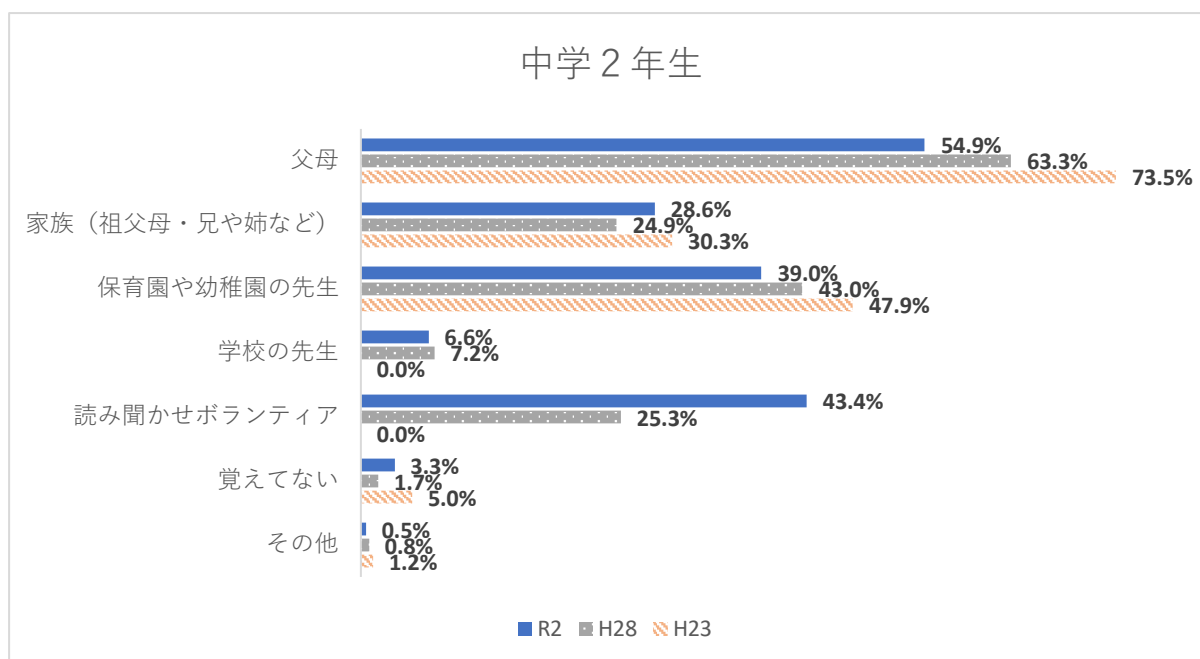


- ・小学5年生の「よく読んでもらった」「時々読んでもらった」の合計割合が減少しているのに対して、高校2年生は増加しています。

【問9】問8で「よく読んでもらった」「時々読んでもらった」と答えた方にお聞きます。それは誰からですか。あてはまる主なものを2つまで選んでください。

		父母	家族（祖父母・兄や姉など）	保育園や幼稚園の先生	学校の先生	読み聞かせボランティア	覚えてない	その他
小学5年生	R2	57.8%	35.0%	48.3%	3.3%	27.1%	3.0%	0.6%
	H28	61.3%	31.5%	39.6%	3.2%	28.4%	1.4%	0.2%
	H23	72.0%	34.8%	50.0%	-	-	1.4%	0.2%
中学2年生	R2	54.9%	28.6%	39.0%	6.6%	43.4%	3.3%	0.5%
	H28	63.3%	24.9%	43.0%	7.2%	25.3%	1.7%	0.8%
	H23	73.5%	30.3%	47.9%	-	-	5.0%	1.2%
高校2年生	R2	65.9%	29.9%	41.5%	4.9%	24.4%	3.0%	0.0%
	H28	74.6%	27.5%	40.1%	4.9%	19.0%	0.7%	0.0%
	H23	69.6%	23.6%	49.7%	-	-	5.0%	1.2%

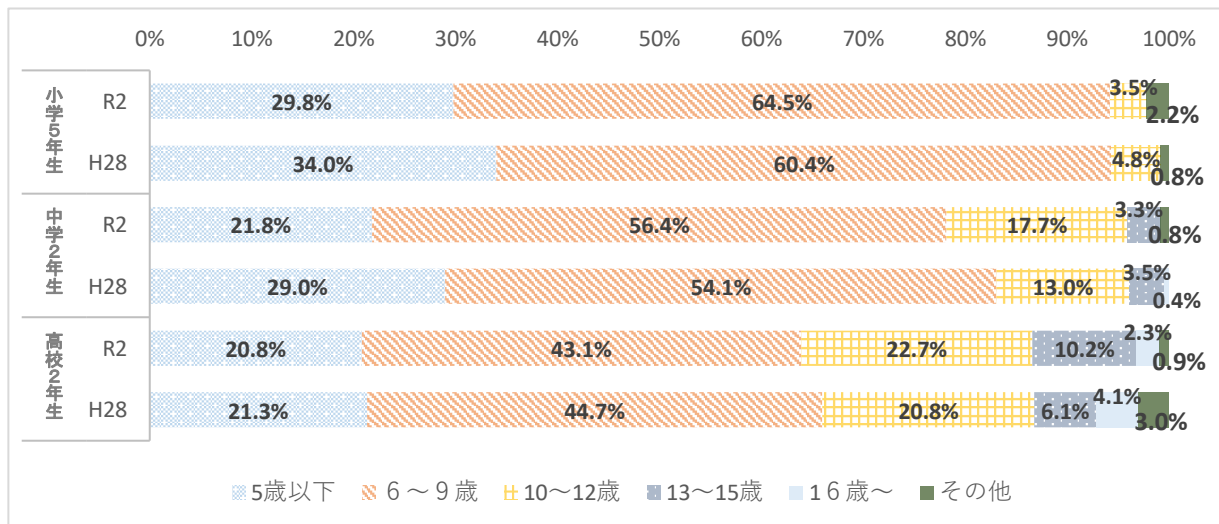




- どの学年においても「父母」、「家族」及び「保育園や幼稚園の先生」に読み聞かせをしてもらっていますが、中学2年生では特に「読み聞かせボランティア」の割合が増加しています。

【問 10】あなたはいつ頃から自分で本を読むようになりましたか。

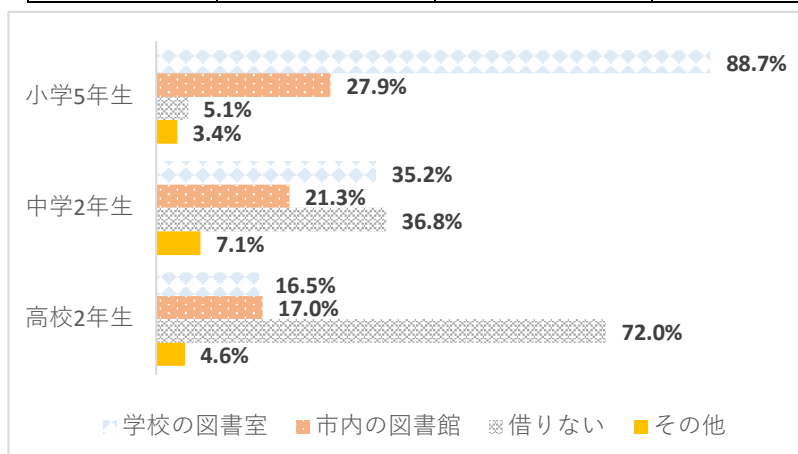
		5 歳以下	6～9 歳	10～12 歳	13～15 歳	16 歳～	その他
小学 5 年生	R2	29.8%	64.5%	3.5%	0%	0%	2.2%
	H28	34.0%	60.4%	4.8%	0%	0%	0.8%
中学 2 年生	R2	21.8%	56.4%	17.7%	3.3%	0.0%	0.8%
	H28	29.0%	54.1%	13.0%	3.5%	0.4%	0.0%
高校 2 年生	R2	20.8%	43.1%	22.7%	10.2%	2.3%	0.9%
	H28	21.3%	44.7%	20.8%	6.1%	4.1%	3.0%



・「6～9 歳」の間に自分で本を読むようになったと回答する割合がどの学年でも多くなっています。

【問 11】あなたは普段どこで本を借りますか。あてはまる主なものを 2 つまで選んでください。

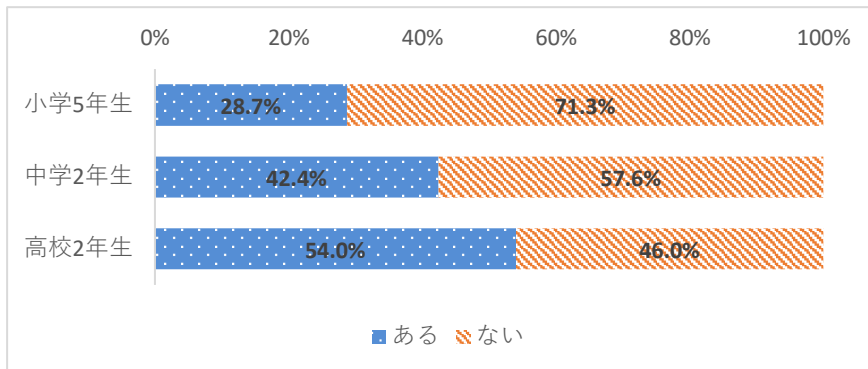
	学校の図書室	市内の図書館	借りない	その他
小学 5 年生	88.7%	39.0%	7.1%	4.8%
中学 2 年生	35.2%	21.3%	36.8%	7.1%
高校 2 年生	16.5%	17.0%	72.0%	4.6%



・小学 5 年生は学校で本を借りる割合が多いですが、中学 2 年生と高校 2 年生は借りないと回答した割合が多くなっています。

【問 12】 あなたは電子書籍を読んだことがありますか。

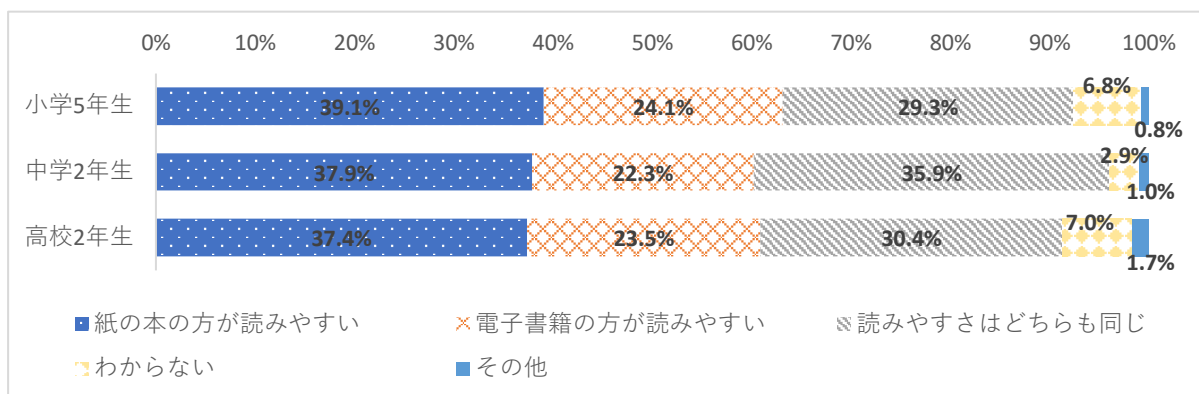
	ある	ない
小学5年生	28.7%	71.3%
中学2年生	42.4%	57.6%
高校2年生	54.0%	46.0%



- ・学年が上がるごとに電子図書館に触れ合う機会が増えています。

【問 13】 問 12 で「ある」と答えた方にお聞きします。読みやすさについてどう感じましたか。次の中から1つ選んでください。

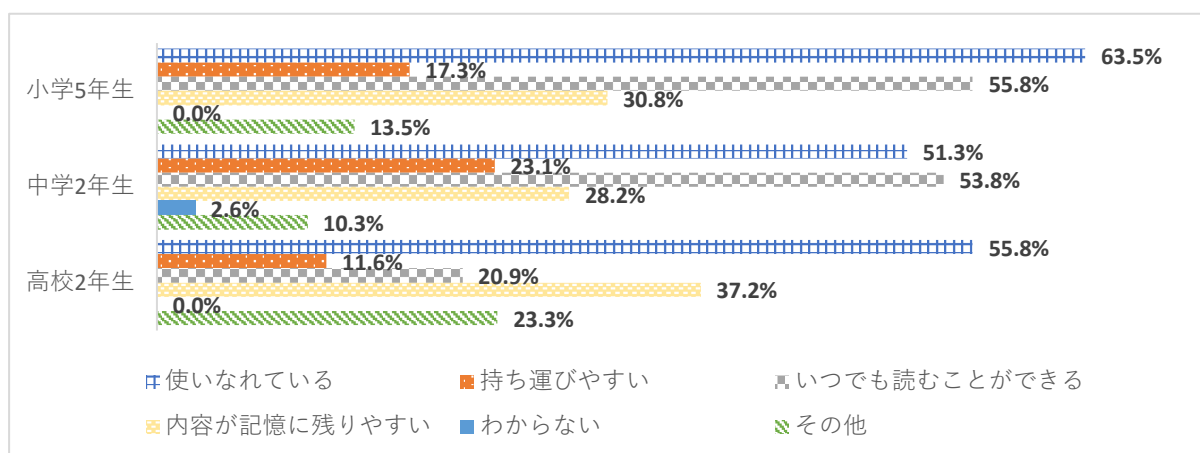
	紙の本の方が読みやすい	電子書籍の方が読みやすい	読みやすさはどちらも同じ	わからない	その他
小学5年生	39.1%	24.1%	29.3%	6.8%	0.8%
中学2年生	37.9%	22.3%	35.9%	2.9%	1.0%
高校2年生	37.4%	23.5%	30.4%	7.0%	1.7%



- ・「紙の本の方が読みやすい」という回答の割合が一番多くなっていますが、「電子書籍の方が読みやすい」「読みやすさはどちらも同じ」と回答している割合も多くなっています。

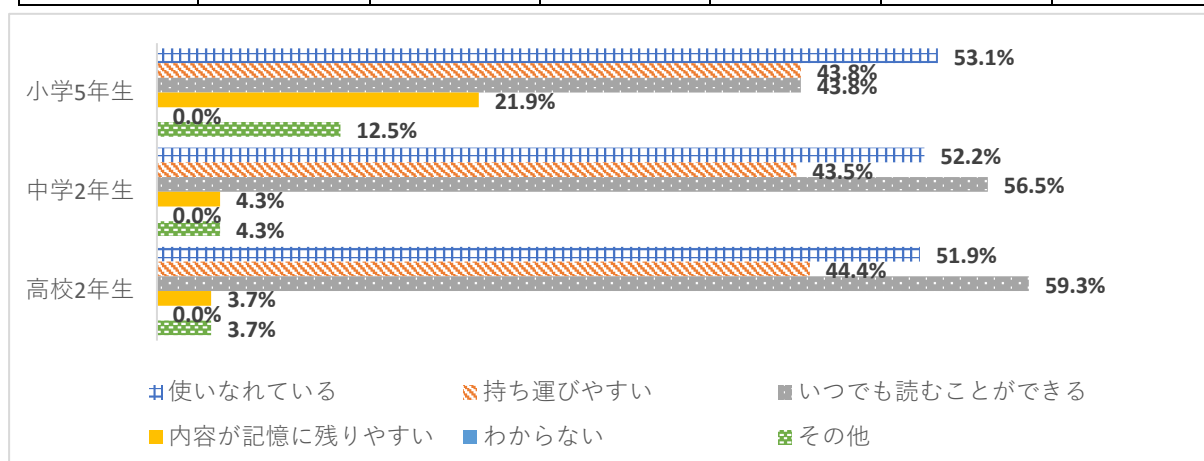
【問 14】 問 13 で「紙の本の方が読みやすい」と答えた方にお聞きします。理由は何ですか。あてはまる主なものを2つまで選んでください。

	使い慣れている	持ち運びやすい	いつでも読むことができる	内容が記憶に残りやすい	わからない	その他
小学5年生	63.5%	17.3%	55.8%	30.8%	0.0%	13.5%
中学2年生	51.3%	23.1%	53.8%	28.2%	2.6%	10.3%
高校2年生	55.8%	11.6%	20.9%	37.2%	0.0%	23.3%



【問 15】 問 13 で「電子書籍の方が読みやすい」と答えた方にお聞きします。理由は何ですか。あてはまる主なものを2つまで選んでください。

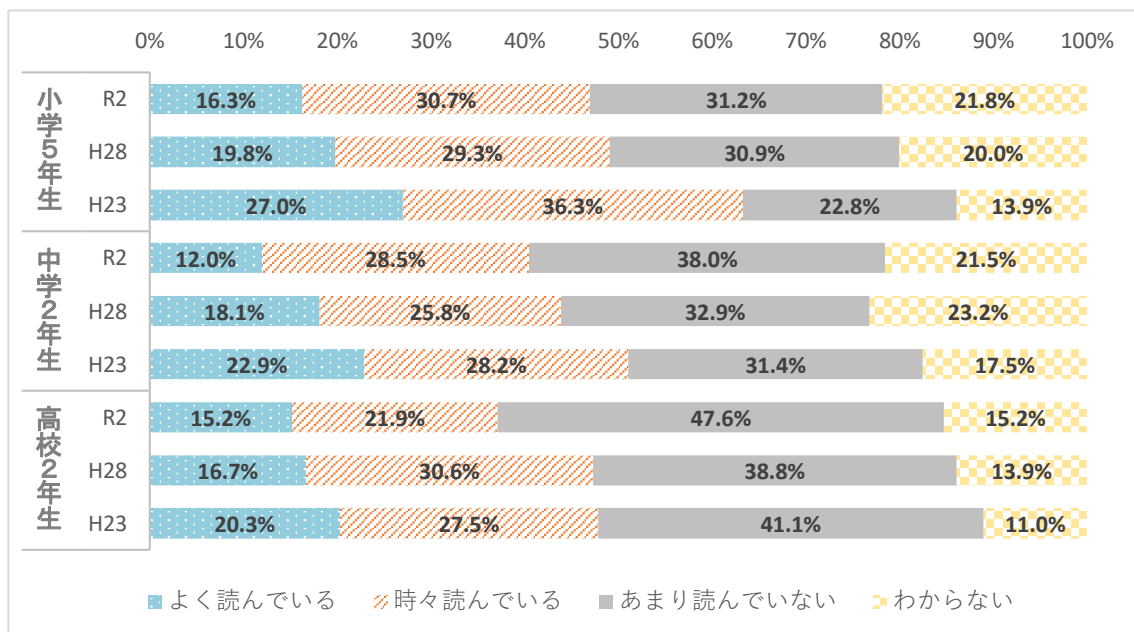
	使い慣れている	持ち運びやすい	いつでも読むことができる	内容が記憶に残りやすい	わからない	その他
小学5年生	53.1%	43.8%	43.8%	21.9%	0.0%	12.5%
中学2年生	52.2%	43.5%	56.5%	4.3%	0.0%	4.3%
高校2年生	51.9%	44.4%	59.3%	3.7%	0.0%	3.7%



- ・【問 14】【問 15】の結果から紙の本は「内容が記憶に残りやすい」と回答した割合が多く、電子書籍は「持ち運びやすい」と回答した割合が多くなっています。

【問 16】家の人は、よく本を読んでいますか。

		よく読んでいる	時々読んでいる	あまり読んでいない	わからない
小学5年生	R2	16.3%	30.7%	31.2%	21.8%
	H28	19.8%	29.3%	30.9%	20.0%
	H23	27.0%	36.3%	22.8%	13.9%
中学2年生	R2	12.0%	28.5%	38.0%	21.5%
	H28	18.1%	25.8%	32.9%	23.2%
	H23	22.9%	28.2%	31.4%	17.5%
高校2年生	R2	15.2%	21.9%	47.6%	15.2%
	H28	16.7%	30.6%	38.8%	13.9%
	H23	20.3%	27.5%	41.1%	11.0%

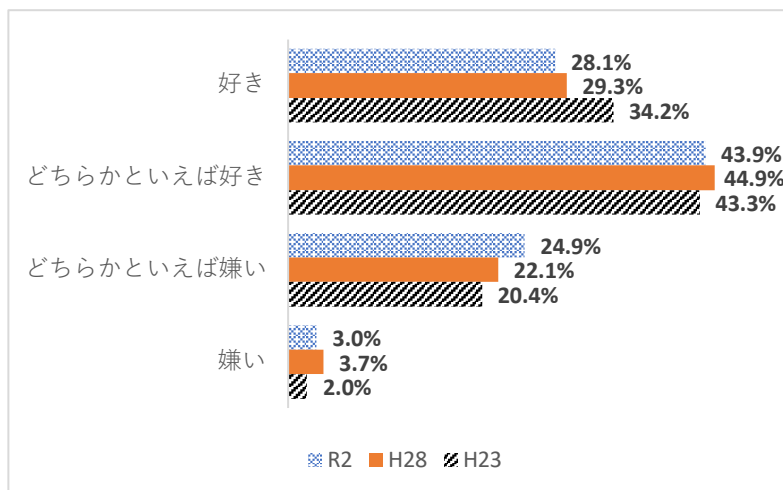


- ・ご家族の方が本を読んでいる割合は減少傾向にあります。

保護者調査結果

【問１】あなた(保護者)は本を読むことが好きですか。

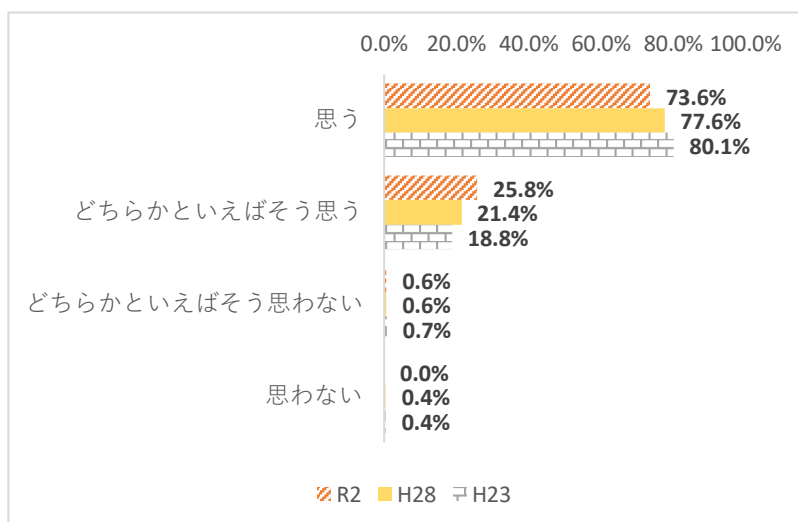
	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
R2	28.1%	43.9%	24.9%	3.0%
H28	29.3%	44.9%	22.1%	3.7%
H23	34.2%	43.3%	20.4%	2.0%



・「好き」「どちらかといえば好き」と回答した合計の割合は減少しています。

【問２】あなた(保護者)は読書を大切に思いますか。

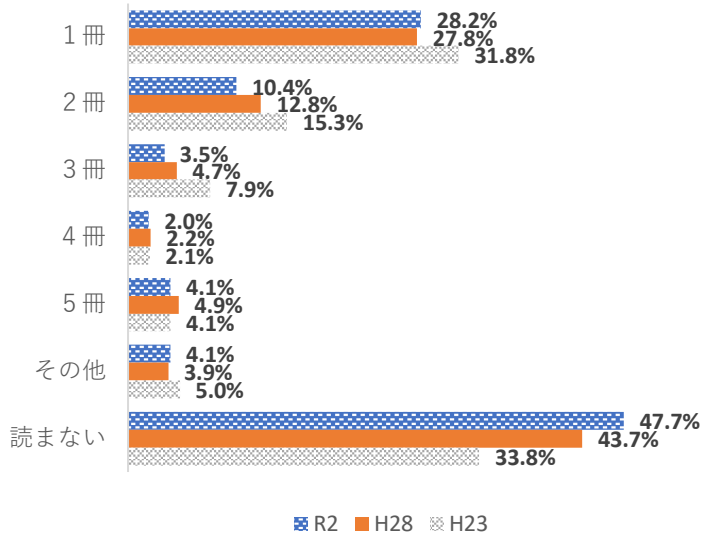
	思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	思わない
R2	73.6%	25.8%	0.6%	0.0%
H28	77.6%	21.4%	0.6%	0.4%
H23	80.1%	18.8%	0.7%	0.4%



・「思う」「どちらかといえばそう思う」の合計の割合が増加傾向にあります。

【問3】あなた(保護者)は平均して1か月に何冊くらい本を読みますか。

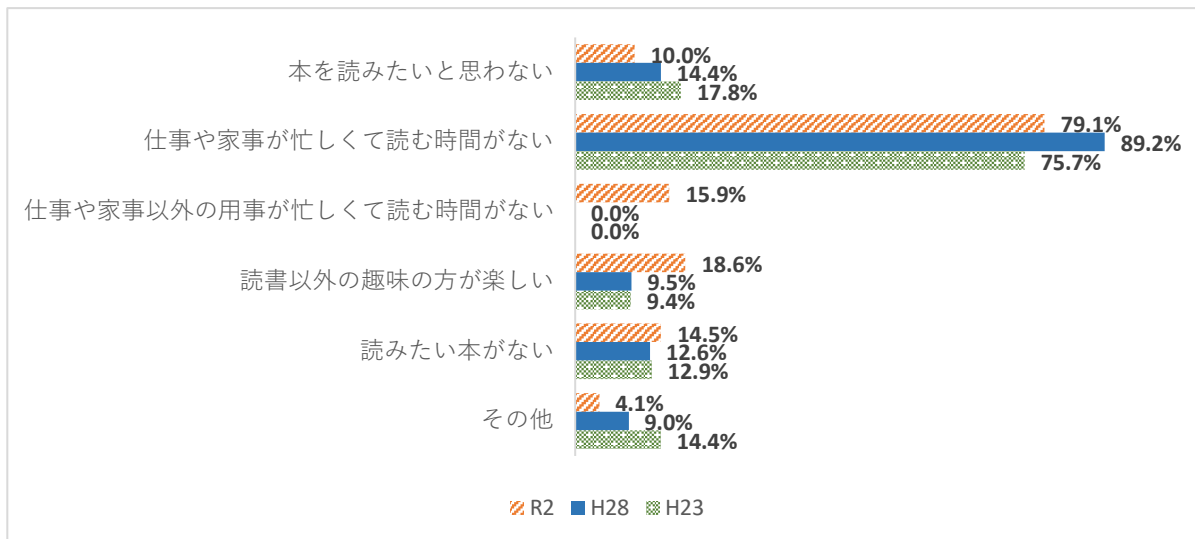
	1冊	2冊	3冊	4冊	5冊	その他	読まない
R2	28.2%	10.4%	3.5%	2.0%	4.1%	4.1%	47.7%
H28	27.8%	12.8%	4.7%	2.2%	4.9%	3.9%	43.7%
H23	31.8%	15.3%	7.9%	2.1%	4.1%	5.0%	33.8%



・1冊読むと答えた割合は、前回の調査から増加していますが、2冊以上になると全てで減少しています。また、「読まない」の割合が年々増加しています。

【問4】問3で「読まない」と答えた方にお聞きします。本を読まない理由は何ですか。あてはまる主なものを2つまでお選びください。

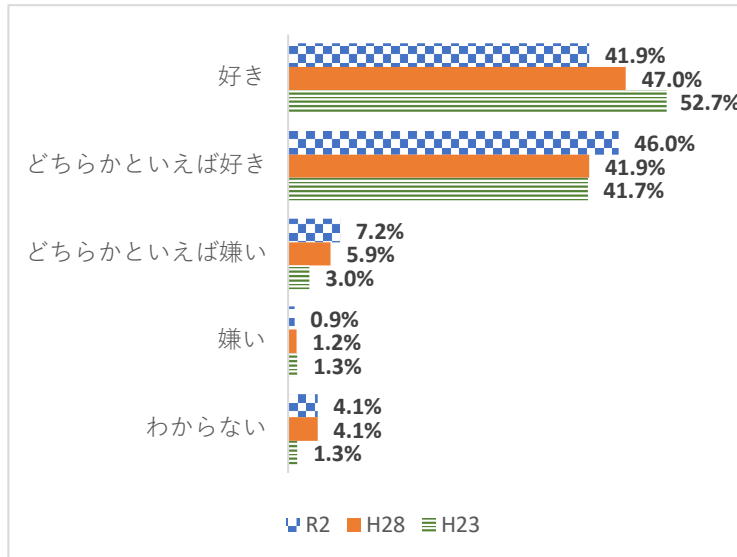
	本を読みたいと思わない	仕事や家事が忙しくて読む時間がない	仕事や家事以外の用事が忙しくて読む時間がない	読書以外の趣味の方が楽しい	読みたい本がない	その他
R2	10.0%	79.1%	15.9%	18.6%	14.5%	4.1%
H28	14.4%	89.2%	—	9.5%	12.6%	9.0%
H23	17.8%	75.7%	—	9.4%	12.9%	14.4%



・読書以外の趣味の方が楽しいと感じている割合が増加しています。

【問5】あなたのお子さんは本が好きですか。

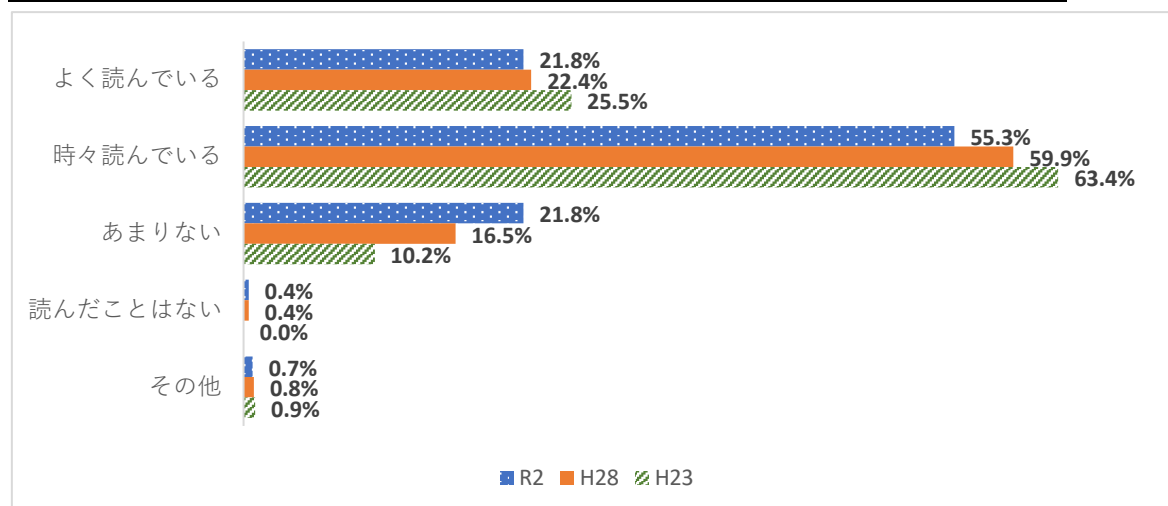
	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	わからない
R2	41.9%	46.0%	7.2%	0.9%	4.1%
H28	47.0%	41.9%	5.9%	1.2%	4.1%
H23	52.7%	41.7%	3.0%	1.3%	1.3%



・「好き」「どちらかといえば好き」の合計の割合は減少傾向にあります。

【問6】子どもに本を読んであげたことはありますか。

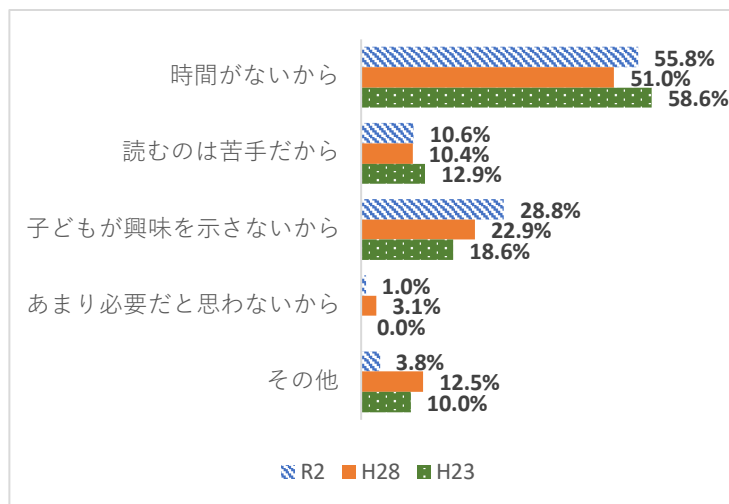
	よく読んでいる	時々読んでいる	あまりない	読んだことはない	その他
R2	21.8%	55.3%	21.8%	0.4%	0.7%
H28	22.4%	59.9%	16.5%	0.4%	0.8%
H23	25.5%	63.4%	10.2%	0.0%	0.9%



・子どもに本を「よく読んでいる」「時々読んでいる」を合わせた割合は、年々減少傾向にあります。

【問7】問6で「あまり読んでいない」「読んだことはない」と答えた方にお聞きします。その理由はなんですか。

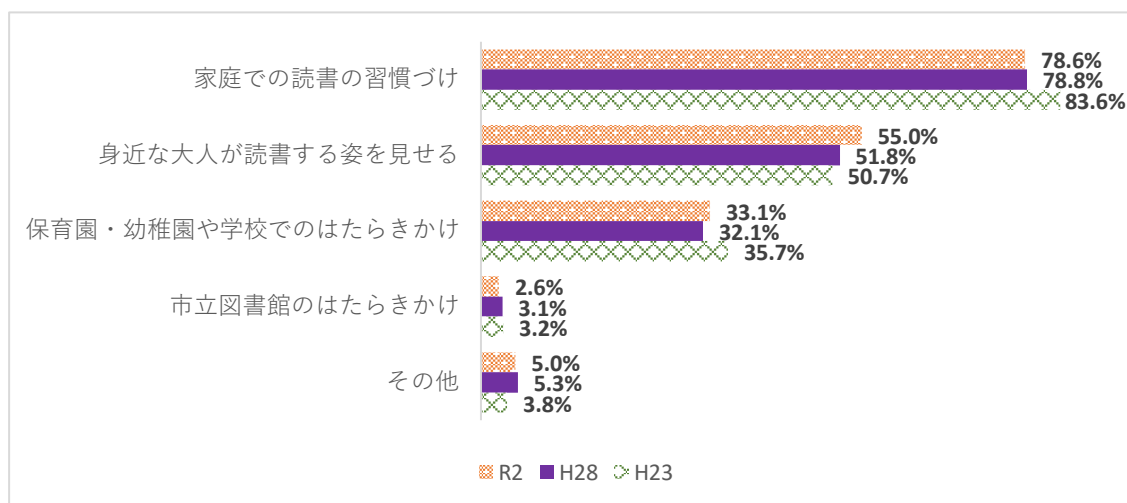
	時間がないから	読むのは苦手だから	子どもが興味を示さないから	あまり必要だと思わないから	その他
R2	55.8%	10.6%	28.8%	1.0%	3.8%
H28	51.0%	10.4%	22.9%	3.1%	12.5%
H23	58.6%	12.9%	18.6%	0.0%	10.0%



・「時間がないから」という回答が多いですが、「子どもが興味を示さないから」という回答も増加傾向にあります。

【問8】本の好きな子どもに育てるには、どんなことが必要だと思いますか。あてはまる主なものを2つまでお選びください。

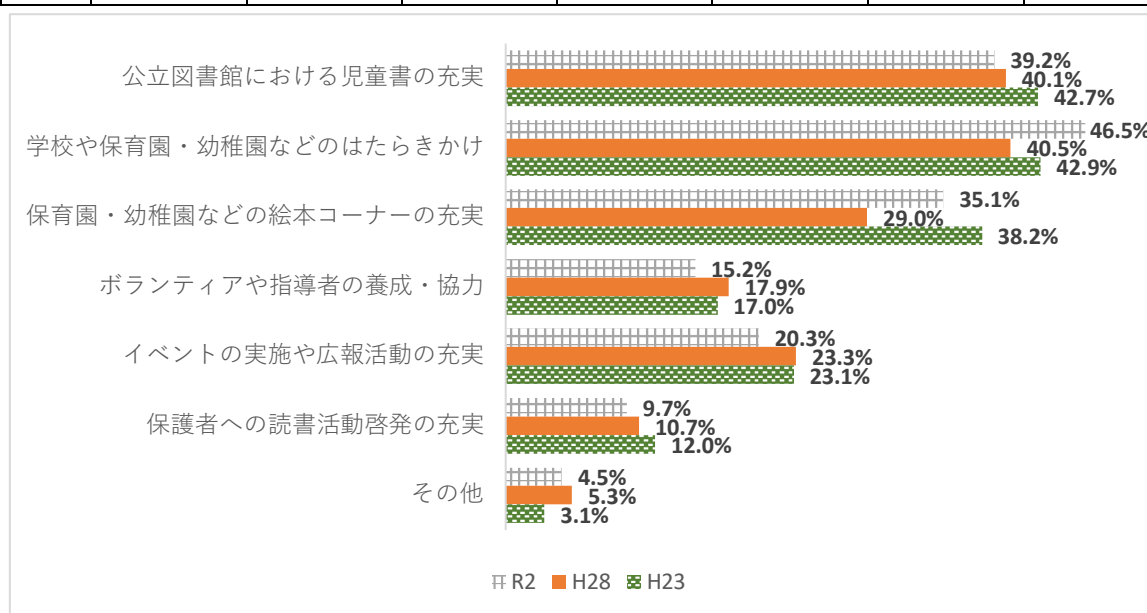
	家庭での読書の習慣づけ	身近な大人が読書する姿を見せる	保育園・幼稚園や学校ではたらきかけ	市立図書館のはたらきかけ	その他
R2	78.6%	55.0%	33.1%	2.6%	5.0%
H28	78.8%	51.8%	32.1%	3.1%	5.3%
H23	83.6%	50.7%	35.7%	3.2%	3.8%



・子どもが本を好きになるには「家庭での読書の習慣づけ」の割合が一番多いですが、「身近な大人が読書をする姿を見せる」の割合も増加しています。

【問9】子どもの読書環境等で、今後充実させてほしいと思うことは何ですか。あてはまる主なものを2つまでお選びください。

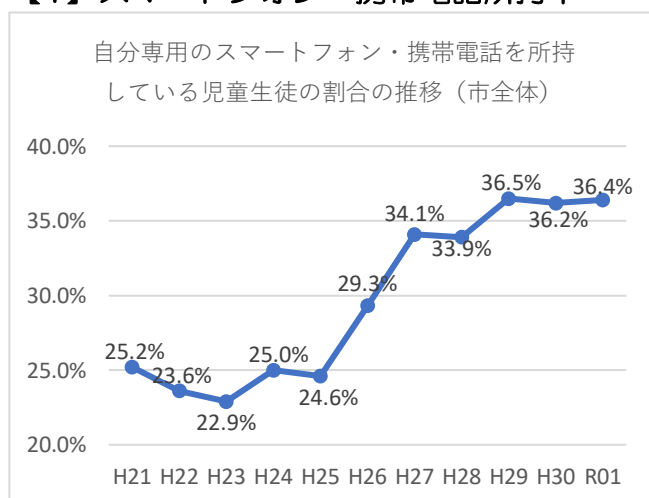
	公立図書館における児童書の充実	学校や保育園・幼稚園などのはたらきかけ	保育園・幼稚園などの絵本コーナーの充実	ボランティアや指導者の養成・協力	イベントの実施や広報活動の充実	保護者への読書活動啓発の充実	その他
R2	39.2%	46.5%	35.1%	15.2%	20.3%	9.7%	4.5%
H28	40.1%	40.5%	29.0%	17.9%	23.3%	10.7%	5.3%
H23	42.7%	42.9%	38.2%	17.0%	23.1%	12.0%	3.1%



・「学校や保育園・幼稚園などのはたらきかけ」を充実させてほしいという意見が多くなっています。

(2)教育センター「インターネット及び携帯電話・スマートフォンの利用状況等に関するアンケート調査」より

【1】スマートフォン・携帯電話所持率



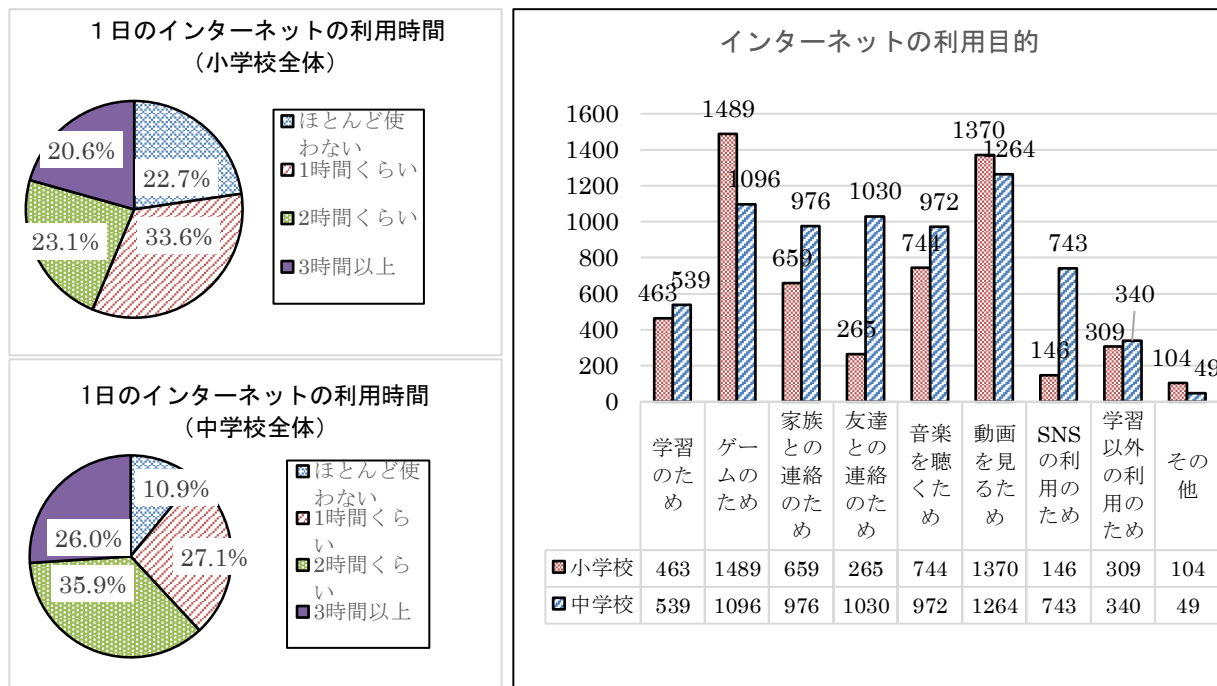
平成27年度以降の所持率は、35%前後で推移

＜学年別の所持率＞

学年	所持率	スマホの所持率 ※1
小学1年	7.6%	42.3%
小学2年	9.6%	48.5%
小学3年	17.0%	42.6%
小学4年	30.9%	39.5%
小学5年	33.5%	41.0%
小学6年	39.7%	52.7%
中学1年	54.5%	72.6%
中学2年	65.6%	84.5%
中学3年	69.8%	89.5%

※1 携帯電話等を所持している児童生徒の内、スマートフォンを所持している児童生徒の割合

【2】インターネット利用時間と利用目的



- ・学年が上がるにつれ、スマートフォン・携帯電話の所持率が上昇していることが分かります。またインターネットの利用時間も、小学生より中学生の方が長く、利用目的としては、ゲーム・動画視聴・音楽を聴くことが多くなっています。

(3) 考察

アンケート結果から、子どもに限らず大人も本を読む機会や読書が好きだという割合が減少しています。この結果を踏まえると、読書が好きな子どもを増やすためには保護者や身近な大人たちの影響が大きいことが想定されます。保護者も、本を読むことは大切だと思っている方がほとんどですが、共働き世帯の増加により、なかなか子どもに読み聞かせをする時間が取れないことやスマートフォンなどの普及により、本と触れ合う機会が減少していることが子どもの読書離れに大きな影響があることが想定されます。

また、子どもが本を読まない理由は「本がつまらない」「読みたい本がない」という回答が多くある一方で、「6～9歳」から本を自分で読み始めたという回答した子どもの割合は多くなっていることから、乳幼児期から、本の楽しさや魅力を伝えていくとともに、本を継続して読みたいと思ってもらえるような工夫や取組が重要となってきます。

さらに、子どもたちの近くにいる大人へ啓発を行い、学校・地域・家庭・図書館などが連携・協力し、活動を推進していく必要があります。

第2章 基本的な考え方

1 基本目標

学校・地域・家庭・図書館などが連携・協力し、子どもが幼少期からたくさん
の本と出会い、読書の楽しさに触れ、読書好きな子どもを増やすことを目的に、
前期計画での「さまざまな読書の機会を提供すること」「読書環境の整備」「楽し
く読める環境づくり」を発展させ継承します。

子ども読書活動推進プランの目標

《 読書好きな子どもへ ～子どもに本と出会う機会を～ 》

2 基本方針

三期計画を踏襲し、引き続き4つの基本方針を定めます。

I 子どもが読書に親しむ機会の提供

読書の楽しさや必要性を理解できるよう、学校・地域・家庭・図書館などで、
子どもが読書に親しむ機会を提供していきます。また、子どもの発達の段階に
応じた取組を行い、読書を継続的に楽しむことができる力を育てます。特に、
子どもの読書活動に大きな影響力のある保護者の意識の醸成や支援をするこ
とで、子どもたちが幼少期から本と出会えるよう努めます。

II 子どもの読書環境の整備・充実

質・量ともに図書資料の充実を図るとともに、子どもたちが来館して楽しい
と感じる魅力ある図書館や学校図書館を目指した環境整備を行います。また、
子どもの読書活動を支える読み聞かせボランティアなどの研修の機会の充実
により育成を図るとともに、図書館司書、学校図書館事務職員などのスキルア
ップに努めます。さらに、図書館においては、障がいのある子どもたちへの読
書支援に努めます。

III 子どもの読書活動推進体制の整備

学校・地域・家庭・図書館など、子どもの読書活動に関わる全ての人が連携・
協力し、社会全体で子どもの読書活動を推進する体制を整備していきます。特
に図書館においては、幼稚園・認定こども園・保育園・学校などからの見学・
学習依頼に協力するとともに、連携強化に努めます。

IV 子どもの読書に関する啓発・広報活動の推進

保護者や幼稚園教諭、保育士、教職員など、子どもをとりまく大人に対して
も広く読書の楽しさや必要性について、啓発・広報活動を行います。また、SNS
などを利用した啓発・広報活動に努めます。

【佐野市子ども読書活動推進プランの概念図】

《 基本目標 》

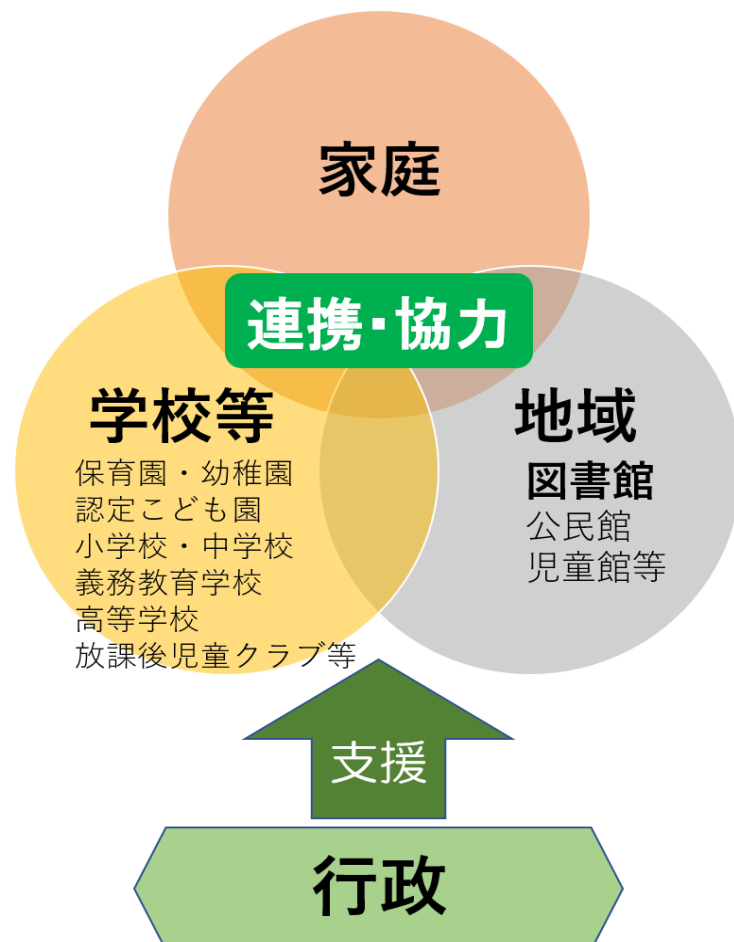
読書好きな子どもへ

～子どもに本と出会う機会を～

《 基本方針 》

- I 子どもが読書に親しむ機会の提供
- II 子どもの読書環境の整備・充実
- III 子どもの読書活動推進体制の整備
- IV 子どもの読書に関する啓発・広報活動の推進

《 推進体制 》

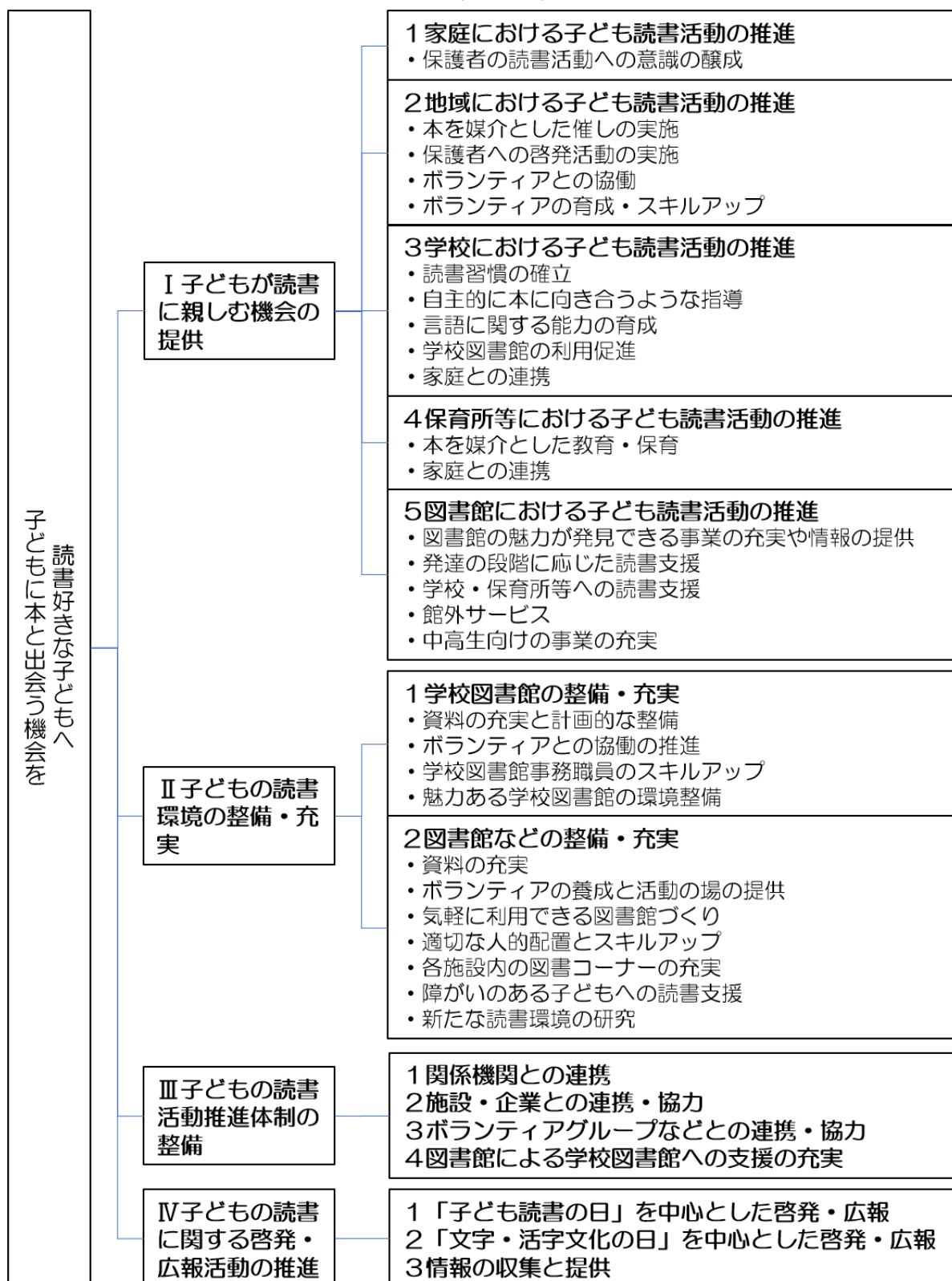


3 施策の体系

基本目標

基本方針

施策の方向性



4 プランの指標

プランの基本目標の実現に向けて、次の指標を設定します。

〈読書状況〉

(1) 本を読むことが好きと回答した割合

区 分	平成28(2016)年度	令和2(2020)年度		目 標 令和7(2025)年度
小学5年生	90.5%	81.9%	⇒	90%
中学2年生	88.1%	77.9%	⇒	88%
高校2年生	83.8%	68.8%	⇒	84%

※令和2(2020)年度の数値は令和3(2021)年1月アンケート調査より、
「好き」「どちらかという好き」と答えた子どもの割合

※平成28(2016)年度数値は平成29(2017)年1月アンケート調査より

(2) 子どもの1か月の読書冊数

区 分	平成28(2016)年度	令和2(2020)年度		目 標 令和7(2025)年度	〈参 考〉栃木県実績 令和2(2020)年度
小学5年生	6.8冊	6.3冊	⇒	8冊	8.19冊
中学2年生	3.1冊	3.5冊	⇒	4冊	3.62冊
高校2年生	2.6冊	1.7冊	⇒	3冊	1.47冊

※令和2(2020)年度の数値は令和3(2021)年1月アンケート調査より

※平成28(2016)年度数値は平成29(2017)年1月アンケート調査より

※栃木県の数値は、栃木県子どもの読書活動に関する実態調査結果より

(3) 子どもの不読率

区 分	平成28(2016)年度	令和2(2020)年度		目 標 令和7(2025)年度	〈参 考〉栃木県実績 令和2(2020)年度
小学5年生	11.0%	20.0%	⇒	11%	7.6%
中学2年生	12.2%	18.4%	⇒	12%	15.2%
高校2年生	36.2%	50.0%	⇒	36%	51.2%

※令和2(2020)年度の数値は令和3(2021)年1月アンケート調査より、
「読まない」「ほとんど読まない」と答えた子どもの割合

※平成28(2016)年度数値は平成29(2017)年1月アンケート調査より

※栃木県の数値は、栃木県子どもの読書活動に関する実態調査結果より

(4) 市内の図書館の児童書と学校図書館の貸出冊数

区 分	平成 28(2016)年度	令和 2(2020)年度	目 標 令和 7(2025)年度
図書館	232,084冊	127,216冊	⇒ 300,000冊
小学校	233,510冊 (1人あたり約40冊)	241,939冊 (1人あたり約44冊)	⇒ 265,000冊 (1人あたり約48冊)
中学校	31,700冊 (1人あたり約9冊)	16,548冊 (1人あたり約5冊)	⇒ 30,000冊 (1人あたり約9冊)
合 計	497,294冊	385,703冊	⇒ 595,000冊

参考 高等学校〈市内6校の高校の合計冊数〉3,529冊（1人あたり約1冊）

※中学校図書館の数値は、公立及び私立中学校分の合計である。

〈家庭における読書環境について〉

(5) 子どもに読み聞かせをしている家庭の割合

区 分	平成 28(2016)年度	令和 2(2020)年度	目 標 令和 7(2025)年度
未就学児の家庭	82.3%	77.1%	⇒ 82%

※令和 2(2020)年度の数値は令和 3(2025)年 1 月アンケート調査より

※平成 28(2016)年度数値は平成 29(2017)年 1 月アンケート調査より

(6) 家の人がよく読書をしていると回答した割合（平均）

区 分	平成 28(2016)年度	令和 2(2020)年度	目 標 令和 7(2025)年度
小学 5 年生 中学 2 年生 高校 2 年生	46.8%	43.0%	⇒ 47%

※令和 2(2020)年度の数値は令和 3(2021)年 1 月アンケート調査より

※平成 28(2016)年度数値は平成 29(2017)年 1 月アンケート調査より

第3章 子ども読書活動推進のための施策

第1節 子どもが読書に親しむ機会の提供

1 家庭における子ども読書活動の推進

現状と課題

絵本などを通じた親子の触れ合いは、言葉や知識の獲得、愛情の確認など、子どもだけではなく、保護者にとっても大きな意味を持つものです。成長するにつれ、読書が生活の一部となっていくには、子どもの生活の基礎である家庭が、大きな影響力を持ちます。

平成31(2019)年度全国学力・学習状況調査※1の結果でも、「読書は好きですか」との質問に「当てはまる」と回答している子の平均正答率が一番高く、読書が学力にも影響を与えているといえます。

アンケート調査では、約7割の子どもが読み聞かせをしてもらっており、その多くが父母を含む家族からとなっています。また、保護者の約8割の方が、子どもに読み聞かせを行ったことがあり、概ね、読書の大切さを理解していることがうかがえます。

現在、子どもの読書習慣の定着に向けて、乳幼児期から絵本に親しむなど、家庭における読み聞かせや読書活動の重要性への理解を深めるよう啓発を行っていますが、今後も、これまで以上に保護者への働きかけが重要となります。

		小学校 〈平均正答率〉		中学校 〈平均正答率〉		
		国語	算数	国語	数学	英語
読書は好きですか	当てはまる	70.1	70.9	79.4	65.8	60.0
	どちらかといえば、 当てはまる	62.3	65.3	73.4	60.2	56.4
	どちらかといえば、 当てはまらない	57.6	62.8	68.1	55.9	53.6
	当てはまらない	50.4	57.7	61.8	51.0	50.6

参考：平成31(2019)年度全国学力・学習状況調査 報告書より

※1 全国学力・学習状況調査：文部科学省が日本全国の小中学校の最高学年全員を対象に行っている調査。国語、算数・数学、英語、理科（英語、理科は3年に1回程度）のテストとアンケートの両方が行われている。

施策の方向性

・保護者の読書活動への意識の醸成

乳幼児健康診査やブックスタート事業などの場、幼稚園・認定こども園・保育園・学校・市役所などから、ブックリストやハンドブックなどを配布し、保護者への情報提供・啓発を行っていきます。

【主な取組】

事業名	概 要	関係機関等
ブックスタート事業 【継続】	9か月児健康診査時に、ブックスタートボランティアや図書館員による絵本の読み聞かせとともに、ブックスタートパック(絵本1冊と0歳児向け読書啓発資料のセット)を配布し、保護者の啓発を行う。	健康増進課 図書館
その他の健康診査時の啓発 【継続】	4か月、1歳6か月、3歳児健康診査時に、家庭での絵本の読みきかせの状況を聞き、該当月齢にあった絵本のパンフレットの配布を行う。	健康増進課
おはなし会 【継続】	年齢ごとのおはなし会、絵本の読み聞かせを通じて保護者の啓発を行う。	図書館 児童館 こどもの国
子育てハンドブックによる情報提供 【継続】	様々な子育て情報を集約した「子育てハンドブック」による情報提供を行う。	こども課
家庭への情報発信 【継続】	家庭への通信の中で保護者へ読書に関する情報提供・啓発を行う。	幼稚園・認定こども園・保育園 学校
家庭教育推進出前講座 【新規】	本を読むことと子育てを関連させた講座を幼稚園・認定こども園・保育園・小学校などへ「家庭教育支援チーム」が出向いて行う。	生涯学習課

2 地域における子ども読書活動の推進

現状と課題

児童館・こどもの国・放課後児童クラブ・子育て支援センター・保健センター・公民館・放課後子ども教室など、子どもや保護者が多く集まる施設では、現在、本の読み聞かせや催し物を通じて、子どもが本に出会う機会が少しでも多くなるよう活動しています。特に、アンケート調査において、読み聞かせボランティアから読んでもらったとの回答が多いことから、「読み聞かせボランティア」の存在は大きいと言えます。

現在、多くの読み聞かせボランティアが様々な施設で絵本の読み聞かせなどの活動を行っていますが、活動の場をさらに広げていくとともに、ボランティアの育成・スキルアップにも取り組む必要があります。

また、地域のボランティアとも協働し、社会が一体となって読書活動の推進を図ることが重要です。

施策の方向性

・本を媒介とした催しの実施

児童館、こどもの国、放課後児童クラブ、子育て支援センター、保健センター、公民館、放課後子ども教室などで、絵本の読み聞かせや、本を媒介とした催し物など、一層の充実を図ります。

・保護者への啓発活動の実施

各施設で保護者への啓発を継続して行っていきます。

・ボランティアとの協働

ボランティアの活動の場を広げ、協働することにより子どもの読書活動の推進を図ります。

・ボランティアの育成・スキルアップ

ボランティアの発掘・育成・スキルアップのため、情報の周知や助言を行っていきます。

【主な取組】

事業名	概 要	関係機関等
絵本などの読み聞かせ 【継続】	絵本や紙芝居の読み聞かせ、絵本の選び方のアドバイスなどを行い、読書活動の推進を行う。	児童館 こどもの国 放課後児童クラブ 子育て支援センター 健康増進課 公民館 放課後子ども教室
読書活動推進の啓発 【継続】	「子育てハンドブック」により読書活動に関する情報提供を行う。(再掲) 子育て支援室「ぴよぴよルーム」において読書活動の推進を行う。	こども課 保育課
親と子のふれあい活動 【継続】	「親と子のふれあい活動」において読書活動の推進を行う。	公民館
集会所子ども学習会開催事業 【継続】	「集会所子ども学習会」において、「読み語り」の学習などを通じて、読書活動の推進を行う。	隣保館
乳幼児健康診査事業 【継続】	乳幼児健康診査の際に、年齢に応じた推奨図書を掲載したブックリストを配布し、保護者への啓発を行う。	健康増進課
ボランティアの育成 【継続】	ボランティア団体などの活動の手助けをし、絵本の読み聞かせの技術や選書など、子どもの読書に関する情報の周知や助言を行う。	生涯学習課 図書館
ボランティアのスキルアップ 【継続】	県立図書館から指導者を招き、子どもの読書に関する技術や知識の研修会を開催する。	県立図書館 生涯学習課 図書館
ブックスタートボランティアの育成 【継続】	ブックスタート事業で絵本の読み聞かせを行うボランティアを育成する。	健康増進課 図書館

3 学校における子ども読書活動の推進

現状と課題

文部科学省では、平成29(2017)年3月に幼稚園教育要領、小学校及び中学校学習指導要領、平成30(2018)年3月に高等学校学習指導要領を改訂しました。その中において、言語能力の育成を図るために、読書活動を充実することが示されています。

そのため、現在市内の多くの小中学校において、児童・生徒の集中力を高め、読書に対する興味を持つことを目的に全校一斉読書の時間を設けています。

アンケート調査では、小学5年生の約82%が本を読むことを「好き」「どちらかといえば好き」と答えていますが、中学2年生では約78%、高校2年生では約69%と、成長するにしたがって、その割合は減少しています。また、小学5年生では約80%の子どもが、本を「毎日読んでいる」「ときどき読んでいる」のに対し、高校2年生では50%となり、学年が上がるにつれ、勉強や部活動、最近ではスマートフォンの利用時間増加などにより読書の時間が取れない現状が推察できます。さらに、学校図書館は、小学5年生の約89%、中学2年生の約35%、及び高校2年生の約17%が普段本を借りる場所と回答しています。

学校は、1日の大半を過ごし、様々な知識を得て、経験をすることができる場であり、子どもに大きな影響を与える場であることから、今後も引き続き、それぞれの発達段階に応じた指導・支援を全校体制で取り組んでいく必要があります。

施策の方向性

・読書習慣の確立

「校内一斉読書活動」や「読書週間」の催しなどを通じて、読書の習慣が身に付くよう指導します。

・自主的に本に向き合うような指導

小学生以下を対象に読み聞かせやブックトーク※2、アニメーション※3、中高生を対象にしたビブリオバトル※4などを通じて、読書に興味を持つ機会を提供し、子どもが自主的に本に向き合うような、発達の段階に応じた指導をします。

※2 **ブックトーク**：ある主題に関連する数冊の本を集め、その本の魅力について語りながら、本の紹介を行う。

※3 **アニメーション**：モンセラ・サルト(スペイン)が開発した子どもたちに読書の楽しさを伝えるとともに読む力を引き出すためのグループ参加型の読書指導方法。

※4 **ビブリオバトル**：数名が、お勧めの本を持ち寄り、それぞれの本を紹介し合い、一番読みたくなった本を参加者の多数決で決定する書評会。

・言語に関する能力の育成

論理的思考やコミュニケーション、感性・情緒の基盤となる「言語に関する能力」を高めるため、読書活動の推進を図ります。

・学校図書館の利用促進

学校図書館は児童、生徒にとって日常的に利用できる場所として、その重要性は欠くことができないものです。

また、学習指導要領の各教科の項目においても、学校図書館を活用した教育活動の展開が大切であるとしています。様々な教科で広く利用できる場として環境を整え、読書活動の推進を図ります。

・家庭との連携

「学校だより」や「学校図書館だより」などで、保護者へ読書に関する情報提供・啓発を行い、保護者の読書に対する意識の高揚を図ります。

・移動図書館による読書支援

移動図書館ひまわり号の定期巡回により、学校への読書支援を行います。

また、新1年生の図書館利用者カードを作成し、幼少期からの図書館利用の促進を図ります。

【主な取組】

事業名	概 要	関係機関等
朝の一斉読書 (校内一斉読書) 【継続】	全校一斉に読書の時間を設け、集中力を高め、読書に親しむ機会を設ける。	学校
読書週間や読書に関する催しの実施 【継続】	読書週間や読書に関する催し(家読※5、ビブリオバトル、アニメーション、多読者の表彰など)の実施を通じて、読書への興味・関心を高め、読書に親しむ機会を設ける。	学校
「学校図書館だより」の発行 【継続】	「学校図書館だより」の発行により、児童生徒や保護者へ読書に関する情報提供・啓発を行い、読書に対する意識の高揚を図る。	学校
学校独自の「推薦図書」の選定 【継続】	学校独自に推薦図書を設定するなど、幅広く読書に親しもうとする意欲を育てる。	学校

事業名	概 要	関係機関等
読み聞かせ 【継続】	教職員や保護者、地域ボランティアなど、様々な人からの読み聞かせを通して、読書への興味、関心、意欲を高める。 児童生徒が下級生への読み聞かせをすることにより、読書への興味、関心、意欲を高める。	学校
新1年生図書館利用者カードの作成 【新規】	市内小学校新1年生の図書館利用者カードを持っていない子どもに対し、図書館利用者カードを作成し、子どもの図書館利用促進に努める。	図書館
家庭教育推進出前講座 【新規】	本を読むことと子育てを関連させた講座を幼稚園・認定こども園・保育園・小学校などへ「家庭教育支援チーム」が出向いて行う。(再掲)	生涯学習課



※5 家読（うちどく）：家族でお薦めの本を紹介し合ったり、読んだ本について話し合ったりすることで、家族のコミュニケーションを図る取組。

4 幼稚園・認定こども園・保育園における子ども読書活動の推進

現状と課題

幼稚園・認定こども園・保育園では、日々、本を媒介とした教育・保育などに取り組んでいます。就学前の自我の目覚め始める時期の本へのアプローチは、子どもにとって大きな意味を持つといえます。また、定期的な読み聞かせの実施など、幼少期の読書活動を支える重要な役割を果たしています。

保護者に対するアンケート調査では、ほとんどの方が読書の重要性を理解していますが、読み聞かせをしている割合は低下しているため、今後も引き続き、保護者に対して読書の大切さを情報提供・啓発していく必要があります。

施策の方向性

・本を媒介とした教育・保育

絵本の読み聞かせなど、本を媒介とした日々の教育・保育を通じて、本に親しみ、関心を持てるよう、読書活動の推進を図ります。

・家庭との連携

「園だより」などで、保護者へ読書に関する情報提供・啓発を行い、保護者の読書に対する意識の高揚を図ります。

・移動図書館による読書支援

団体貸出を充実させ、幼稚園・認定こども園・保育園への読書支援を行います。また、園児の図書カードを作成し、幼少期からの図書館利用の促進を図ります。

【主な取組】

事業名	概 要	関係機関等
読み聞かせ 【継続】	日常の教育・保育の中で、本に親しむ機会を広げていく。	幼稚園・認定こども園・保育園
「園だより」などによる情報提供・啓発 【継続】	「園だより」などで保護者に対する情報提供・啓発を行う。	幼稚園・認定こども園・保育園
園児の図書館利用者カードの作成 【新規】	移動図書館で巡回する幼稚園・認定こども園・保育園の図書館利用者カードを持っていない園児に対し、図書館利用者カードを作成し、子どもの図書館利用促進に努める。	図書館
家庭教育推進講座 【新規】	本を読むことと子育てを関連させた講座を幼稚園・認定こども園・保育園・小学校などへ「家庭教育支援チーム」が出向いて行う。(再掲)	生涯学習課

5 図書館における子ども読書活動の推進

現状と課題

図書館は、たくさんの本と出会えるところです。現在、「おはなし会」、「読書感想画の募集・展示」など、図書館や本が好きになるような参加型の催しを実施しています。

また、アンケート調査から、市内の図書館で本を借りる割合は、小学5年生では約 28%、中学2年生では約 21%、高校2年生では約 15%であり、学年が上がるほど、図書館から遠ざかっている傾向がみられます。

今後も、引き続き発達の段階に応じた図書館の利用促進に努めるとともに、子どもの読書活動を推進する拠点として、今まで以上に子どもが本に気軽に触れ合えるような活動を展開していく必要があります。

施策の方向性

・図書館の魅力が発見できる事業の充実や情報の提供

「こどもの読書週間」や「読書週間」での催しや、職場体験学習を通じて、図書館や本の魅力を感じられる事業の実施や情報を提供します。

・発達の段階に応じた読書支援

定例的に「おはなし会」「小さな子のおはなし会」を行っていきます。また、たくさんある本の中から、読みたいと思う本のきっかけづくりや0歳児から高校生まで、発達に応じた本の紹介をしていきます。

・学校・幼稚園・認定こども園・保育園への読書支援

団体貸出を充実させ、学校・幼稚園・認定こども園・保育園への読書支援を行います。また、図書館利用者カードをまだ持っていない新1年生や園児の図書館利用者カードを作成し、幼少期からの図書館利用の促進を図ります。

・館外サービス

図書館に足を運ぶ人は市民の中の一部です。図書館から出張して「おはなし会」や「ブックトーク」、「団体貸出」を行い、子どもが本に触れる機会を広げていきます。

・中高生向けの事業の充実

中高生が読書に関心を持てるような魅力的なイベントなどを実施していきます。また、ホームページやSNSを活用した情報提供・啓発を行います。

【主な取組】

事業名	概 要	関係機関等
職場体験学習の 受入れ 【継続】	中高生の職場体験学習を受け入れ、図書館を身近なものに感じてもらう。	図書館
図書館利用推進 事業 【継続】	主に小学2・3年生対象に、図書館の利用の仕方、図書館での調べ学習の方法などを教え、本や図書館に興味を持ってもらう。	図書館
おはなし会 【継続】	定例的におはなし会を実施し、本や図書館に興味を持ってもらう。	図書館
小さな子のおは なし会 【継続】	0歳～3歳児とその保護者を対象におはなし会を実施し、保護者への啓発を行う。	図書館
おすすめ本のリス トの作成 【継続】	0歳から高校生まで年齢に応じたおすすめの本のリストを作成し、本への興味を喚起する。	図書館
ブックトーク 【継続】	おすすめの本の紹介を行うことにより、本に興味を持ってもらう。	図書館
読書感想画の募 集・展示 【継続】	読んだ本の感想を絵に描くことにより、また、応募作品を展示・観覧することで、気軽に読書を楽しむ機会をつくる。	図書館
子ども向けの情 報提供 【継続】	館内 OPAC※6の「こども用」バージョンの整備を行い、子どもでもわかりやすい案内を行う。	図書館
館外サービス 【継続】	おはなし会やブックトークを出張して行う。	図書館
中高生向けイベ ント・展示 【継続】	中高生による図書展示作成、おすすめ図書のPOP制作など、中高生が読書に興味を持てるようなイベント・展示を行う。	図書館
ホームページ・ SNSでの情報 提供・啓発 【継続】	ホームページや Twitterなどで中高生が図書館に関心を持てるような情報発信を行う。	図書館

※6 館内 OPAC(オーパック)：利用者用の蔵書検索端末で、利用者が自由に操作できるものをいう。

事業名	概 要	関係機関等
読書通帳 【継続】	読書習慣の育成を図るため、小学生に図書館オリジナルの読書通帳の配布を行う。	図書館
移動図書館 【継続】	希望する幼稚園・認定こども園・保育園・小学校・放課後児童クラブなどへ巡回し、図書館から遠距離にある地域への図書館サービスを行う。	図書館
団体貸出 【継続】	教科書に対応する図書の収集、学校や放課後児童クラブに向け団体貸出を行い、調べ学習などの支援を行う。	図書館
小学生の司書体験 【継続】	小学生の高学年を対象に図書館の司書の仕事を体験し、図書館に親しむ機会を作る。	図書館
新１年生図書館利用者カードの作成 【新規】	市内小学校新１年生の図書館利用者カードを持っていない子どもに対し、図書館利用者カードを作成し、子どもの図書館利用促進に努める。(再掲)	図書館
園児の図書館利用者カードの作成 【新規】	移動図書館で巡回する幼稚園・認定こども園・保育園の図書館利用者カードを持っていない園児に対し、図書館利用者カードを作成し、子どもの図書館利用促進に努める。(再掲)	図書館

第2節 子どもの読書環境の整備・充実

1 学校図書館の整備・充実

現状と課題

学校図書館蔵書冊数調査では、現在、市内ほとんどの学校が国の基準を上回る蔵書を所蔵しています。また、学校図書館を管理する司書教諭は、令和3(2021)年4月1日現在、23校に配置されています。その他、学校図書館事務職員が16名のうち、1校に勤務している事務職員が3名、2校に勤務している事務職員が13名で、公立学校29校全てに配置されています。

しかし、学校が蔵書する本は、読むことが難しい古い本なども多くみられ、計画的に整備していく必要がありますが、図書の修理・配架・整理などは、保護者や地域のボランティアの力によるところが大きい学校もあり、ボランティアの受入体制をさらに整える必要があります。

さらに、今後も、市内の図書館などとも連携した研修会を行うことでスキルアップに努め、魅力ある学校図書館作りをしていく必要があります。

施策の方向性

・資料の充実と計画的な整備

新しく本を購入するとともに、古い本や汚損本などを廃棄し、資料を計画的に整備していきます。

・ボランティアとの協働の推進

保護者だけでなく、地域のボランティアなどを広く受け入れる体制を整備します。

・学校図書館事務職員のスキルアップ

学校図書館事務職員の研修会などを充実させ、スキルアップを図ります。

・魅力ある学校図書館の環境整備

掲示などを工夫し、子どもたちにとって魅力ある学校図書館作りに努めます。

【主な取組】

事業名	概 要	関係機関等
学校図書館及び 学級文庫図書の 整備 【継続】	古い本、汚損本などの整備を行う。図書館 の学校支援図書貸出制度やリサイクル本 を活用し、学級文庫の充実を図る。	学校
学校図書館事務 職員研修 【継続】	学校図書館事務職員の研修を行い、スキル アップとともに、各種情報の共有を図る。	学校管理課 図書館
ボランティアに よる支援 【継続】	地域のコーディネーターやボランティア と連携し、図書館の整備を行う。	学校 生涯学習課
学校と図書館の 連携 【継続】	学校の調べ学習や授業のために、学校の要 望に応じて、図書館資料の貸出や、資料準 備の相談を受ける。行事への講師派遣や助 言などの協力も行う。	学校 図書館 生涯学習課
学校図書館司書 教諭講習 【継続】	年2回開催されている講習に、教職員を派 遣する。	学校 学校教育課
小・中教研図書 館部会の研修 【継続】	小・中学校教育研究会（図書館部会）の研 修を図書館などで行い、魅力ある学校図書 館の環境づくりに役立てます。	学校 図書館



2 図書館などの整備・充実

現状と課題

図書館3館の児童書蔵書数は令和3(2021)年3月31日現在、155,827冊です。また、市内の子育て支援のための各施設や幼稚園・認定こども園・保育園・放課後児童クラブ・公民館などにも、図書コーナーや図書室が設けられています。

また、現在は、図書館・田沼図書館・葛生図書館の3館とも「あかちゃんの駅」に登録されており、乳幼児とその保護者が利用しやすい環境づくりを進めています。

今後も引き続き、子どもにとって魅力のある本、子どもに読ませたい本、大人が読み聞かせをしてあげたい本、子育て支援の本など、子どもだけでなく、大人も利用したいと思う本を揃え、魅力ある読書環境づくりに取り組む必要があります。さらに、障がいのある子どもにも利用しやすい環境を整えるなど、誰もが足を運びたくなるような図書館にしていく必要があります。

施策の方向性

・資料の充実

学校などの関係機関と協力して多種多様な資料を揃え、学校支援資料を拡充します。また、ヤングアダルト※7向け資料を充実させ、読書離れの始まる世代への働きかけを行います。

・ボランティアの養成と活動の場の提供

読み聞かせボランティアや図書館ボランティアなどの養成を図り、活動の場を提供します。また、中高生ボランティアを育成し、連携して若者が利用しやすい図書館づくりをしていきます。

・気軽に利用できる図書館づくり

乳幼児連れでも利用しやすい施設を目指します。

・適切な人的配置とスキルアップ

専門職員の適切な配置と職員のスキルアップを目指し、必要な本を選書する力と子どもと本を結びつける様々な技術を身に付け、図書館の活動に活かして行きます。

・各施設内の図書コーナーの充実

児童館などの子育て支援施設や幼稚園・認定こども園・保育園・放課後児童クラブ・公民館などの図書コーナーや図書室を整備・充実していきます。

※7 ヤングアダルト：中学高校生世代の青少年。図書館では、この世代向けの図書館資料を「YA（ヤングアダルト）資料」という。

・障がいのある子どもへの読書支援

LLブック※⁸や大活字図書、点字図書などの子ども向けの資料を充実させます。また、読書拡大機やリーディングトラッカー※⁹などの読書補助機器の設置に努めます。

・新たな読書環境の研究

教育へのICT活用の重要性が高まる中、新たな時代の読書環境として、電子図書館について研究をしていきます。

【主な取組】

事業名	概 要	関係機関等
学校支援資料の充実【継続】	調べ学習支援や読書支援の資料を充実する。	図書館
ヤングアダルト資料の充実【継続】	ヤングアダルト世代のニーズを的確にとらえた選書と配架展示の工夫を行う。	図書館
資料の整備【継続】	ロングセラーのものなど、計画的な買い替えや補充に努めるとともに、新しい良い資料の発見に努力する。	図書館
ボランティアの養成と活動の場の提供【継続】	中高生を含むボランティアを養成し、活動の場を広げる。また、研修の機会や必要な情報の周知を行う。	図書館
職員のスキルアップ【継続】	各種研修会に積極的に参加する。	図書館
障がいのある子どものための環境の整備、資料の充実【新規】	LLブック、子ども向けの大活字図書、点字図書などの資料収集の充実、リーディングトラッカー、読書拡大機などの読書補助機器の設置、その他、施設のバリアフリー化に努める。	図書館
電子図書館の研究【新規】	教育へのICT活用の重要性が高まる中、新たな時代の読書環境として、電子図書館について研究をする。	図書館 生涯学習課

※⁸ LL（エルエル）ブック：知的障がい、学習障がいなど通常の活字図書の利用が困難な人にも理解できるように、図や写真を多く使うなどの工夫をして書かれた本。

※⁹ リーディングトラッカー：読みたい行に集中して読めるように、両隣の行の文字を隠して読み進める読書補助具。

第3節 子どもの読書活動推進体制の整備

1 関係機関との連携・協力

現状と課題

子どもの読書活動の推進には、学校・地域・家庭・図書館などの連携が不可欠です。しかしながら、これまでも連携・協力体制の構築に努めてきましたが、まだ十分な連携体制が構築できているとは言えない状況です。

今後も引き続き、関係機関との連携・協力体制の構築を図るとともに、それぞれが連携して子どもが本と触れ合う機会を増やし、総合的な子ども読書活動の推進を図る必要があります。

施策の方向性

・関係機関との連携・協力

図書館・学校図書館・幼稚園・認定こども園・保育園・放課後児童クラブ・放課後子ども教室・児童館・子育て支援センター・保健センター・公民館など、子どもの読書活動に携わる全ての関係機関が連携・協力します。

【主な取組】

事業名	概 要	関係機関等
佐野市子ども読書推進プランの推進 【継続】	関係機関と連携を取りながら、子ども読書活動に関する情報を共有し、プランの推進を図る。	全ての関係機関



2 施設・企業との連携・協力

現状と課題

これまで、美術館や化石館などの社会教育施設で読書に関するイベントや企画展示などを実施し、多くの方が気軽に読書と触れ合える機会を創出してきました。また、企業とも図書館でのビジネス支援や雑誌スポンサー制度で連携し、読書環境の充実を図ってきました。

今後も引き続き、企業や社会教育施設と連携・協力を図り、イベントや展示の実施など、普段本を読まない子どもも気軽に読書に触れ合えるような機会を創出していく必要があります。

施策の方向性

・施設・企業との連携・協力

市内の社会教育施設（美術館・化石館など）や企業と連携・協力し、親子で楽しめるような企画展示を行い、図書館の利用促進に努めます。

【主な取組】

事業名	概 要	関係機関等
市内社会教育施設との合同イベント 【新規】	図書館以外の社会教育施設などと協力し、合同でイベントを開催する。	社会教育施設 図書館
企業展示 【新規】	親子で楽しめる企業に関する展示を行う。	企業 図書館

3 ボランティアグループなどとの連携・協力

現状と課題

アンケート調査において、読み聞かせボランティアから読んでもらったとの回答が多いことから、読み聞かせボランティアの存在は大きいと言えます。

現在、多くの読み聞かせボランティアが様々な施設で絵本の読み聞かせなどの活動を行い、子どもたちが本と触れあう機会、本を読みたくなる環境作りを行っています。

今後も、子どもたちの読書への興味・関心を高めさせるために、ボランティアの確保や育成・スキルアップのための研修の場の提供などを進めていく必要があります。

施策の方向性

・ボランティアグループなどとの連携・協力

図書館・各学校・各施設のボランティアや地域のコーディネーターなど、子どもの読書活動に携わる全てのボランティアが連携・協力し、情報の共有・交換のできるスキルアップ研修を行います。

【主な取組】

事業名	概 要	関係機関等
ボランティアの育成 【継続】	ボランティア団体などの活動の手助けをし、絵本の読み聞かせの技術や選書など、子どもの読書に関する情報の周知や助言を行う。(再掲)	生涯学習課 図書館
ボランティアのスキルアップ 【継続】	県立図書館から指導者を招き、子どもの読書に関する技術や知識の研修会を開催する。(再掲)	県立図書館 図書館 生涯学習課
ブックスタートボランティアの育成 【継続】	ブックスタート事業で絵本の読み聞かせを行うボランティアを育成する。(再掲)	健康増進課 図書館
ボランティアの養成と活動の場の提供 【継続】	中高生を含むボランティアを養成し、活動の場を広げる。また、研修の機会や必要な情報の周知を行う。(再掲)	図書館

4 図書館による学校図書館への支援の充実

現状と課題

学校図書館は、子どもたちが読書と触れあうことができる場として、大きな役割を果たしています。市内のほとんどの学校が国の基準を上回る蔵書を所蔵し、公立学校 29 校全てには、事務職員が配置されているなど、学校図書館の充実を図っています。

子ども読書活動推進のためには、学校図書館を充実させることが必要不可欠であるとともに、多くの蔵書を有し、読書活動の中心となる図書館との連携も必要不可欠です。図書館主催の研修会を開催し、図書館司書の知識を教職員や学校事務職員と共有することで、より良い学校図書館を運営していく必要があります。

施策の方向性

・図書館による学校図書館への支援の充実

図書館と学校図書館の交流をさらに進め、図書館は学校図書館活動を支援していきます。また、見学・学習依頼に協力します。

【主な取組】

事業名	概 要	関係機関等
学校図書館事務職員研修 【継続】	学校図書館事務職員の研修を行い、スキルアップとともに、各種情報の共有を図る。(再掲)	学校管理課 図書館
学校と図書館の連携 【継続】	学校の調べ学習や授業のために、学校の要望に応じて、図書館資料の貸出や、資料準備の相談を受ける。行事への講師派遣や助言などの協力も行う。(再掲)	学校 図書館 生涯学習課
小・中教研図書館部会の研修 【継続】	小・中学校教育研究会（図書館部会）の研修を図書館などで行い、魅力ある学校図書館の環境づくりに役立てる。(再掲)	学校 図書館



第4節 子どもの読書に関する啓発・広報活動の推進

1 「子ども読書の日」を中心とした啓発・広報

現状と課題

「子ども読書の日」や「こどもの読書週間」は読書への関心を高められる機会ですが、「子ども読書の日」や「こどもの読書週間」が制定されていることを認識している方は多くありません。

子どもが読書をするきっかけや普段はスマートフォンなどで本を読む子どもが図書館などを訪れるきっかけとして「子ども読書の日」や「子ども読書週間」の周知を図るとともに、子どもたちが参加できる行事などを行い、普段本を読まない子どもにも本を手にとってもらう機会を作ることが必要です。

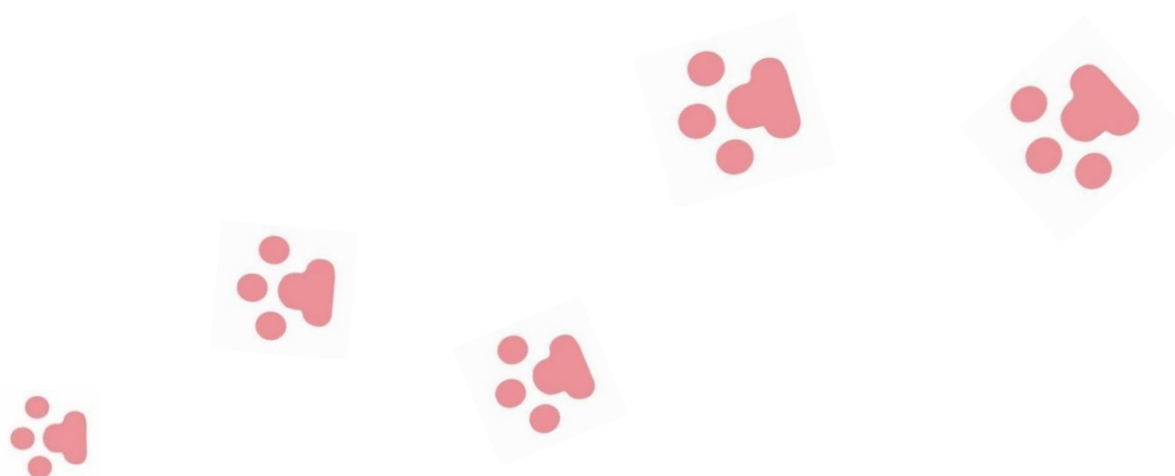
施策の方向性

・「子ども読書の日」を中心とした啓発・広報

毎年4月23日の「子ども読書の日」、さらに4月23日から5月12日の「こどもの読書週間」に合わせて、子どもが参加できる行事などを実施し、読書への関心を高められるよう啓発に努めます。

【主な取組】

事業名	概 要	関係機関等
こどもの読書週間イベント 【継続】	子どもを対象に、全館で共通イベントを行い、図書館利用のきっかけを作ります。	図書館



2 「文字・活字文化の日」を中心とした啓発・広報

現状と課題

「読書週間」については学校教育で取り上げられているだけでなく、広く広告されていることで、子どもに限らず大人にも周知され、読書の楽しさに多くの人が触れ合えることができる貴重な期間となっています。それに比べ、「文字・活字文化の日」の認知度は高くありません。

「読書週間」と共に「文字・活字文化の日」も周知することで、子どもだけでなく大人も本に気軽に触れ合えるよう啓発をしていく必要があります。

施策の方向性

・「文字・活字文化の日」を中心とした啓発・広報

毎年10月27日の「文字・活字文化の日」を中心に、10月27日から11月9日の「読書週間」に合わせて、子どもだけでなく、大人も参加できる行事などを実施することによって、子どもと子どもをとりまく大人も、読書への関心を高められるよう啓発を行います。

【主な取組】

事業名	概 要	関係機関等
読書週間や読書に関する催しの実施 【継続】	読書週間や読書に関する催し（家読、ビブリオバトル、アニメーション、多読者の表彰など）の実施を通じて、読書への興味・関心を高め、読書に親しむ機会を設ける。（再掲）	学校
読書週間イベント 【継続】	利用者全員を対象に、全館で共通イベントを行い、図書館利用のきっかけを作ります。	図書館

3 情報の収集と提供

現状と課題

スマートフォンなどの普及により、欲しい情報がいつでもどこにいても取得できるようになり、また、図書館などの利用者はイベント情報や開館日などは、事前にホームページなどで確認することが増えてきているなど、情報の重要性は高くなってきています。

このような状況から、図書館が中心となり、本に関する情報を収集し、関係機関に提供していくことが重要です。さらに、読書に関する様々な情報を多くの方にホームページや SNS などで発信し、関心を持ってもらうよう働きかけることが重要です。

施策の方向性

・情報の収集と提供

図書館や学校図書館では、子どもの読書活動の推進を目指す先進事例などの情報収集を図り、さらにそれらの情報を各施設、ボランティアなどに提供していきます。また、「図書館だより」や、図書館ホームページ、SNS、市の広報などを利用して、広く市民の方に情報を発信していきます。

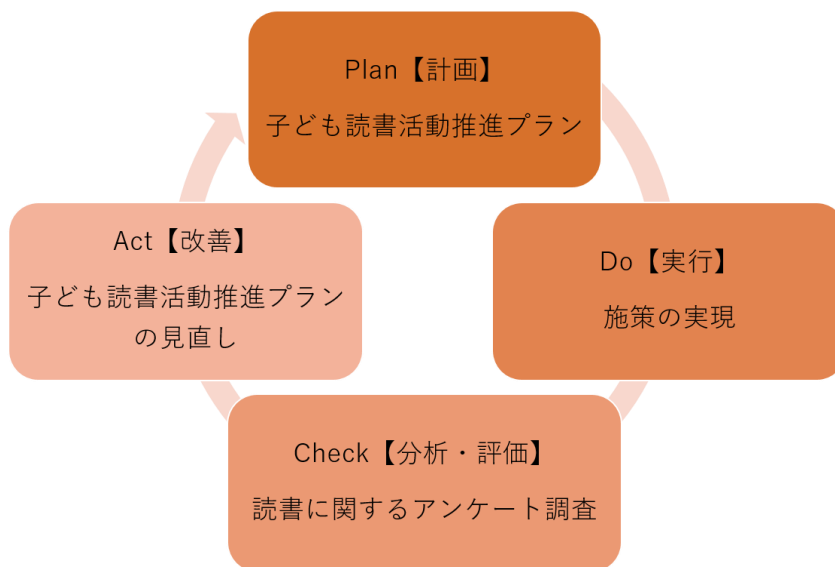
【主な取組】

事業名	概 要	関係機関等
読書活動推進の啓発 【継続】	「子育てハンドブック」により読書活動に関する情報提供を行う。 子育て支援室「ぴよぴよルーム」において読書活動の推進を行う。(再掲)	こども課 保育課
学校と図書館の連携 【継続】	学校の調べ学習や授業のために、学校の要望に応じて、図書館資料の貸出や、資料準備の相談を受ける。行事への講師派遣や助言などの協力も行う。(再掲)	学校 図書館 生涯学習課
ホームページ・SNS での情報提供・啓発 【継続】	ホームページや Twitter などで中高生が図書館に関心を持てるような情報発信を行う。(再掲)	図書館

第4章 子ども読書活動の推進管理体制

1 推進管理体制

本プランを着実に推進し、読書活動の推進・充実を図るため、市は関係機関をはじめ市民・団体と連携・協力し合うとともに「佐野市図書館協議会」において意見を聴取し、効果的な推進を図ります。



2 計画の推進体制

本プランの着実な推進を図るため、施策・事業の実施にあたっては、学校・地域・家庭・図書館などが連携し、取り組みます。

佐野市子どもの読書活動推進プラン

令和4（2022）年3月

発行 佐野市教育委員会

編集 佐野市教育委員会 教育総務部生涯学習課
〒327-8501 栃木県佐野市高砂町1番地

T E L 0283-20-3109

F A X 0283-20-3032

E-mail gakusyu@city.sano.lg.jp

U R L <http://www.city.sano.lg.jp>



©2011 sanocity sanomaru